



WebLight

ウェブライト



ウェブライト
タッチパネル情報端末「WebLight」

KDT712SNGCG-1、KDT715XNGCG-1

ソフトウェアマニュアル

Version 2.1.0

このたびは、タッチパネル情報端末「WebLight」をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、本装置の機能、取り扱い方法などを十分ご理解の上、正しくご使用くださるようお願い致します。

また、ご不明な点につきましては、販売代理店または弊社サポートセンタまでご連絡ください。

はじめに

このたびは、弊社の WebLight をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、「クオリカ」情報端末 WebLight のソフトウェアマニュアルです。

本装置をご使用になるには、必ず本書およびハードウェアマニュアルに記載された正しい手順でお使い下さい。

【お願い】


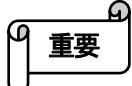

- 本ソフトウェアマニュアルは、必要に応じていつでも読めるように大切に保管ください。
- 本書の内容および本装置の仕様は、改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本書の内容につきましては万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら、お手数ですが弊社営業またはサポートセンタ窓口までご連絡ください。
- 本書の適用の結果生じた間接障害を含め、いかなる損害についても責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本書の内容の一部または全ての無断転載、無断複写は禁止されております。
- 本装置は外国為替および外国貿易管理法の規定により、日本国外に輸出する場合には日本国政府の許可が必要です。

【保証について】

- 本書の注意書きに基づく正常な使用状態のもとで、保証期間内に万一故障し弊社がそれを認めた場合、無償にて故障個所の修理または交換を致します。
- 本製品の故障またはその使用により誘発される二次的な災害については、弊社はその責任を負わないものとします。
- 情報端末「WebLight」を正しく安全にご使用いただくため、下記の安全注意事項を必ずお守りください。これらの注意事項に反した取り扱いにより生じた損害について、当社は責任と保証を致しかねます。

【表記記号について】

本書では、本装置のソフトウェアを正しくご使用頂く為に、以下のような表記記号を使用しています。

	<p>取り扱いを誤った場合に、本装置を含む物的損害の発生が想定される場合の注意事項です。</p>
	<p>装置の使用上の詳しい説明や、具体的手順についての解説及び注意事項です。</p>
	<p>知っておくと有益な情報についての解説及び注意事項です。</p>

【登録商標について】

ActiveDirectory, ClearType, DirectX, DirectDraw, DirectPlay, Microsoft, MS-DOS, MSDN, NetMeeting, Outlook, Visual C++, Visual Studio, Win32, Windows, Windows Media, Windows NT, Windows スタートロゴ, Windows ロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

ソフトウェア使用許諾契約書

本使用許諾契約書は、本システムに含まれるソフトウェアに関してお客様（個人または法人の何れであるかを問いません）とクオリカ株式会社との間に締結される法的な契約書です。

本ソフトウェアは、コンピュータ ソフトウェアおよびそれに関連した媒体、ならびに印刷物（マニュアルなどの文書）、「オンライン」または電子文書を含むこともあります。

本ソフトウェアをインストール、複製、または使用することによって、お客様は、本使用許諾契約書の条項に拘束されることに承諾されたものとします。

本使用許諾契約書の条項に同意されない場合、お客様は、本ソフトウェアのインストール、使用または複製のいずれも許諾できません。

【ソフトウェアライセンス】

本ソフトウェアは、著作権法および著作権に関する条約をはじめ、その他の無体財産権に関する法律ならびに条約によって保護されています。本ソフトウェアは許諾されるもので、販売されるものではありません。

本契約書はお客様に対し、以下の非独占的かつ制限のある権利を許諾します。

A. バイナリコード

本ソフトウェアを含むバイナリコードは本ソフトウェアと対であるハードウェア上でのみにインストールや使用を許諾します。

B. 再頒布の禁止

本ソフトウェアを含むバイナリコードを第三者に配布することを禁止します。

C. その他の権利

本契約書にとくに規定されていない権利はすべてクオリカ株式会社によって留保されます。

【著作権】

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアの複製物についての権限および著作権は、クオリカ株式会社が有するものです。本ソフトウェアを使ってアクセスできるコンテンツについての権限および無体財産権はコンテンツの所有者の所有物で、適用される著作権法および著作権に関する条約の規定によって保護されています。本契約書は、お客様にかかるコンテンツの使用権を許諾するものではありません。本契約書に特に規定されていない権利はすべてクオリカ株式会社によって留保されます。したがって、お客様は本ソフトウェアを他の著作物と同様に扱わなければなりません。

また、お客様が本ソフトウェアのバックアップとして、コピーを作成することはできません。

お客様は、クオリカより提供されるコピーデータを本ソフトウェアと対となるハードウェアに復元する以外の目的で使用することはできません。

お客様は、本ソフトウェア付属のマニュアルなど文書を複製することはできません。

【その他の権利と制限】

A. リバース エンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルの制限

お客様は、本ソフトウェアをリバース エンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすることはできません。

B. サポート

クオリカ株式会社は本ソフトウェアを用いたお客様のアプリケーション開発について原則としてサポートを提供していません。

C. レンタル

お客様は本ソフトウェアをレンタルまたはリースすることはできません。

D. ソフトウェアの譲渡

本契約に基づいたお客様の権利を譲渡することはできません。

E. 解除

お客様が本契約書の条項および条件に違反した場合、クオリカ株式会社は、他の権利を害することなく本契約を終了することができます。そのような場合、お客様は本ソフトウェアの複製物およびその構成部分をすべて破棄しなければなりません。

その他本契約は、日本国法に準拠するものとします。

【保証】

本ソフトウェアを変更なしに対となるハードウェアで使用した場合のみ動作を保証します。

本ソフトウェアにお客様のアプリケーションを追加した場合の動作の保証はできません。

また、変更あるなしにかかわらずお客様による本ソフトウェアのいかなる使用についても、そのリスクはお客様が負うもので、クオリカ株式会社は責任を負うものではありません。

【責任の制限】

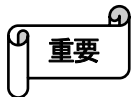
クオリカ株式会社は、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じる一切の損害(逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失またはその他の金銭的損失を含みますがこれらに限定されません)に関して一切責任を負いません。

たとえ、クオリカ株式会社がこのような損害の可能性について知らされていた場合でも同様です。

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項

お客さまが Windows XP Embedded を搭載した本装置をご利用いただくには、マイクロソフト社のソフトウェア再使用許諾契約書である「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項」への同意が必要です。

ご利用の前に必ず下記文章をお読みになり、内容に同意した上で本装置をご使用ください。



この契約内容に違反した場合、ライセンスを破棄される場合があります。

マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項：

Windows® XP Embedded Runtime

本ライセンス条項は、お客様と クオリカ株式会社 との契約を構成します。以下のライセンス条項を注意してお読みください。これらのライセンス条項は本デバイスに含まれる本ソフトウェアに適用されます。本ソフトウェアには、本ソフトウェアが記録された別の媒体も含まれます。

本デバイスのソフトウェアには、マイクロソフトまたはその子会社からライセンス許諾されたソフトウェアが含まれています。

また、本ライセンス条項は本ソフトウェアに関連する下記マイクロソフト製品にも適用されるものとします。

更新プログラム

追加ソフトウェア

インターネットベースのサービス

サポート サービス

ただし、これらの製品に別途ライセンス条項が付属している場合は、当該ライセンス条項が適用されるものとします。お客様がマイクロソフトから更新プログラムまたは追加ソフトウェアを直接入手された場合、クオリカ株式会社 ではなく、マイクロソフトが当該更新プログラムまたは追加ソフトウェアを許諾します。

以下に説明するように、一部の機能を使用することにより、インターネットベースのサービスのために特定のコンピュータ情報を送信することにお客様が同意されたものとします。

本ソフトウェアを使用することにより、お客様は本ライセンス条項に同意されたものとします。本ライセンス条項に同意されない場合、本ソフトウェアを使用または複製することはできません。この場合、クオリカ株式会社 に問い合わせ、お支払いいただいた金額の払戻しに関する方針を確認してください。

お客様が本ライセンス条項を遵守することを条件として、お客様には以下が許諾されます。

1. 使用に関する権利。

お客様は、本ソフトウェアを取得したデバイスで本ソフトウェアを使用できます。

2. 追加のライセンス条件および追加の使用権。

- a. **固有の使用。** クオリカ株式会社 は、本デバイスを特定の目的で使用するよう設計しています。お客様は当該使用目的に限り本ソフトウェアを使用できます。
- b. **その他のソフトウェア。** お客様は、他のプログラムが以下の条件を満たす場合に限り、本ソフトウェアで他のプログラムを使用できます。

- 製造業者の固有のデバイス使用目的を直接サポートする。
- システム ユーティリティ、リソース管理、またはウイルス対策や類似する保護対策を提供する。

コンシューマまたはビジネス タスクやプロセスを提供するソフトウェアを本デバイスで実行することはできません。該当するソフトウェアには、電子メール、ワード プロセッサ、表計算、データベース、スケジュール作成、および家計簿ソフトウェアが含まれています。本デバイスは、ターミナル サービス プロトコルを使用して、サーバーで実行されるこれらのソフトウェアにアクセスできます。

c. デバイス接続。

- お客様は、ターミナル サービス プロトコルを使用して、電子メール、ワード プロセッサ、スケジュール作成や表計算などのビジネス タスクやプロセス ソフトウェアを実行する別のデバイスに本デバイスを接続することができます。
- お客様は、最大 10 台のデバイスに本ソフトウェアへのアクセスを許可し、以下を利用することができます。
 - ファイル サービス
 - プリント サービス
 - インターネットの情報サービス
 - インターネット接続共有サービスおよびテレフォニー サービス

この 10 台という制限は、「マルチプレキシング」または接続数をプールするその他のソフトウェアもしくはハードウェアを介し本ソフトウェアに間接的にアクセスするデバイスにも適用されます。お客様は TCP/IP を介していつでも無制限に受信できます。

3. **使用許諾の適用範囲。** 本ソフトウェアは使用許諾されるものであり、販売されるものではありません。本契約は、お客様に本ソフトウェアを使用する限定的な権利を付与します。クオリカ株式会社 およびマイクロソフトはその他の権利をすべて留保します。適用法によりこの権利を超越した権利が与えられる場合を除き、お客様は本契約書で明示的に許可された方法でのみ本ソフトウェアを使用することができます。お客様は、本ソフトウェアに組み込まれた使用方法を制限する技術的制限に従うものとします。詳細については、本ソフトウェアのマニュアルを参照するか、クオリカ株式会社にお問い合わせください。上記の制限にもかかわらず、法律上許容される範囲において、以下の行為は一切禁止されています。

- 本ソフトウェアの技術的な制限を回避する方法で利用すること
- 本ソフトウェアをリバースエンジニアリング、逆コンパイル、または逆アセンブルすること
- 本契約書に指定される数を超えて本ソフトウェアの複製を作成すること
- 第三者が複製できるように本ソフトウェアを公開すること
- 本ソフトウェアをレンタル、リース、または貸与すること
- 本ソフトウェアを商用ホスティング サービスで利用すること

本契約書で定められている場合を除き、任意のデバイス上で本ソフトウェアにアクセスする権利は、当該デバイスにアクセスするソフトウェアまたはデバイスに関するマイクロソフトの特許またはその他の知的財産権を行使する権利をお客様に付与するものではありません。

お客様は、リモート デスクトップなどのリモート アクセス技術を使用して、別のデバイスから本ソフトウェアにリモート アクセスすることができます。他のソフトウェアにアクセスするプロトコルの使用に必要なライセンスの取得にはお客様が責任を負うものとします。

- リモート ブート機能。クオリカ株式会社 がデバイスにおいて本ソフトウェアのリモート ブート機能を有効にしている場合、お客様は以下の操作ができます。
 - (i) 本ソフトウェアの複製 1 部をお客様のサーバーにインストールして、ライセンス取得済みデバイスにリモート ブート プロセスの一環として展開するためのみに Remote Boot Installation Service (RBIS) ツールを使用する。
 - (ii) リモート ブート プロセスの一環として本ソフトウェアをデバイスに展開するためのみに Remote Boot Installation Service を使用する。

(iii) 本ソフトウェアをライセンス取得済みデバイスにダウンロードして、ライセンス取得済みデバイスで使用する。

詳細については、本ソフトウェアのマニュアルを参照するか、クオリカ株式会社 にお問い合わせください。

- インターネットベースのサービス。マイクロソフトは、本ソフトウェアと共にインターネットベースのサービスを提供します。マイクロソフトは随時このサービスを変更または中止できるものとします。
 - a. **インターネットベースのサービスに関する同意。** 本ソフトウェアには、以下に説明するインターネットを経由してマイクロソフトのコンピュータ システムに接続する機能が含まれます。接続が行われる際、通知が行われない場合があります。これらの機能を解除したり、使用しないことも選択できます。これらの機能に関する詳細については、以下の Web サイトをご参照ください。

<http://www.microsoft.com/windowsxp/downloads/updates/sp2/docs/privacy.mspx>

これらの機能を利用することで、お客様はマイクロソフトがこれらの情報を収集することに同意されたものとします。マイクロソフトはこれらの情報を利用してお客様を特定したり、お客様に連絡したりすることはありません。

b. **コンピュータ情報。** 以下の機能はインターネット プロトコルを使用しており、お客様の IP アドレス、オペレーティング システムの種類、ブラウザの種類、使用している本ソフトウェアの名称およびバージョン、ならびに本ソフトウェアをインストールしたデバイスの言語コードなどのコンピュータ情報を適切なシステムに送信します。マイクロソフトは、お客様にインターネットベースの複数のサービスを提供するためにこれらの情報を利用します。

- **Web コンテンツ機能。** 本ソフトウェアには、関連するコンテンツをマイクロソフトから取得し、お客様に提供する機能が含まれます。コンテンツを提供するために、これらの機能は、お客様が使用しているオペレーティング システムの種類、本ソフトウェアの名称およびバージョン、本ソフトウェアをインストールしたデバイスのブラウザの種類および言語コードをマイクロソフトに送信します。この機能の例として、クリップ アート、テンプレート、オンライン トレーニング、オンライン アシスタンス、および Appshelp が含まれます。これらの機能は、起動しない限り動作せず、お客様は、これらの機能を解除することも、使用しないことも選択できます。
- **電子認証。** 本ソフトウェアはデジタル証明書を使用します。これらの電子認証は、X.509 標準暗号化情報を使用し、インターネット ユーザーを特定します。本ソフトウェアは証明書を取得し、証明書失効リストを更新します。このセキュリティ機能は、お客様がインターネットに接続した場合にのみ作動します。
- **Auto Root Update。** Auto Root Update 機能は信頼できる認証機関のリストを更新します。Auto Root Update 機能は解除することができます。
- **Windows Media Player。** お客様が Windows Media Player を使用すると、マイクロソフトに対して以下が確認されます。
 - お客様の地域において利用可能なオンライン音楽サービス
 - Windows Media Player の最新バージョン
 - Codec (コンテンツの再生に必要な Codec がデバイスにない場合)。お客様は、この機能を解除することができます。詳細については、<http://microsoft.com/windows/windowsmedia/mp10/privacy.aspx> をご参照ください。
- **Windows Media Digital Rights Management。** コンテンツ所有者は、著作権を含む知的財産権を保護する目的で、Windows Media Digital Rights Management (WMDRM) 技術を使用しています。本ソフトウェアおよび第三者のソフトウェアは、WMDRM で保護されたコンテンツを再生、複製する際に WMDRM を使用します。本ソフトウェアがコンテンツを保護できない場合、コンテンツ所有者がマイクロソフトに対して、保護されたコンテンツを WMDRM を使用して再生または複製する本ソフトウェアの機能を無効にするよう要請することがあります。無効にされた場合も、その他のコンテンツは影響を受けません。保護されたコンテンツのライセンスをダウンロードする際、お客様はマイクロソフトがライセンスに失効リストを含めることに同意したものとします。コンテンツ所有者は、お客様がこれらのコンテンツにアクセスする前に、WMDRM のアップグレードを要請することがあります。WMDRM を含むマイクロソフト ソフトウェアは、アップグレードに先立ってお客様の同意を求めます。アップグレードを行わない場合、お客様はアップグレードが必要なコンテンツにアクセスできません。インターネットに接続する WMDRM 機能は解除することができます。この機能が解除されている場合、正規のライセンスを取得している限り、コンテンツを再生することは可能です。

c. インターネットベース サービスの不正使用。お客様は、これらのサービスにダメージを及ぼす可能性のある方法、または第三者によるサービスの使用を妨げる方法で、これらのサービスを使用することはできません。また、サービス、データ、アカウント、またはネットワークへの不当なアクセスを試みるためにこれらのサービスを使用することは一切禁じられています。

4. **Windows Update Agent (Software Update Services と呼ばれます)。**デバイスにインストールされた本ソフトウェアには、必要なサーバー コンポーネントがインストールされたサーバーにデバイスを接続して更新プログラム (「Windows Update」) にアクセスできるようにした Windows Update Agent (「WUA」) 機能が含まれています。Windows Update が付属するこのマイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項または他の EULA の免責に限らず、お客様は、デバイスにインストールする Windows Update について、マイクロソフトおよびその子会社は保証を行わないことを認め、同意するものとします。
5. **製品サポート。**サポート方法については、クオリカ株式会社 にお問い合わせください。サポートの連絡先については本デバイス付属の文書をご参照ください。
6. **バックアップ用の複製。**お客様は、本ソフトウェアのバックアップ用の複製を 1 部作成することができます。バックアップ用の複製は、お客様が本ソフトウェアを本デバイスに再インストールする場合に限り使用することができます。
7. **ライセンス証明書 (「Proof of License」または「POL」)。**お客様が本ソフトウェアを本デバイスにインストールされた状態、CD-ROM またはその他の媒体で入手された場合、本ソフトウェアが正当に許諾されたものであることは、正規のマイクロソフト「Certificate of Authenticity」ラベルが正規の本ソフトウェアに付属していることをもって識別することができます。正規のラベルはデバイス上もしくは クオリカ株式会社 のソフトウェア梱包に貼付されている必要があります。ラベルが別途付属する場合は、無効とみなされます。お客様が本ソフトウェアの使用許諾を受けていることを証明するため、ラベルが貼付されたデバイスもしくは梱包材を保管してください。正規のマイクロソフト ソフトウェアを識別する方法については、<http://www.howtotell.com> をご参照ください。
8. **第三者への譲渡。**お客様は、本ソフトウェアを、本デバイス、Certificate of Authenticity ラベル、および本契約書と一緒にのみ、第三者に直接譲渡することができます。譲渡の前に、本ソフトウェアの譲受人は本ライセンス条項が、譲渡および本ソフトウェアの使用に適用されることに同意しなければなりません。お客様は、バックアップ用の複製を含む本ソフトウェアの複製を一切保持することができません。
9. **非フォールトトレラント。**本ソフトウェアは、フォールトトレラントではありません。クオリカ株式会社 は、本ソフトウェアを本デバイスにインストールし、本デバイスでの本ソフトウェアの実行に責任を負います。
10. **使用の制限。**マイクロソフト ソフトウェアは不具合に対して自動的に対応できる機能または性能を持たないシステムを対象にしています。お客様は、万一誤作動した場合に人身傷害もしくは死亡につながる可能性のあるデバイスまたはシステムでマイクロソフト ソフトウェアを使用することはできません。使用の制限には、原子力施設の操業、航空機の航行、通信システム、および航空管制が含まれます。
11. **本ソフトウェアの保証なし。**本ソフトウェアは、何ら保証のない現状有姿のまま瑕疵を問わない条件で提供されます。本ソフトウェアの使用から生じるリスクは、お客様が負うものとします。他の明示的な保証または条件は規定いたしません。本デバイスもしくは本ソフトウェアに関する保証は、マイクロソフトまたはその子会社が負うことはなく拘束されるものではありません。法律上許容される最大限において、商品性、特定目的に対する適合性、非侵害性に関する黙示の保証について クオリカ株式会社 およびマイクロソフトは一切責任を負いません。
12. **責任の制限。**マイクロソフトおよびその子会社の責任は、250 米ドル (US\$250.00) を上限とする直接損害に限定されます。その他の損害 (派生的損害、逸失利益、特別損害、間接損害、または付随的損害を含みますがこれらに限定されません) に関しては、一切責任を負いません。

この制限は、以下に適用されるものとします。

- 本ソフトウェア、サービス、第三者のインターネットのサイト上のコンテンツ (コードを含みます) または第三者のプログラムに関連した事項
- 契約違反、保証違反、無過失責任、または該当法で許可されている範囲の過失に関する主張

マイクロソフトがこのような損害の可能性について知られていた場合も制限が適用されるものとします。上記の制限は、一部の国では付随的、派生的、およびその他の損害の免責、または責任の制限が認められないため、適用されない場合があります。

13. **輸出規制。**本ソフトウェアは米国および日本国の輸出に関する規制の対象となります。お客様は、本ソフトウェアに適用されるすべての国内法および国際法を遵守することに同意されたものとします。これらの法律には、輸出対象国、エンドユーザーおよびエンドユーザーによる使用に関する制限が含まれます。詳細については www.microsoft.com/japan/exporting をご参照ください。

本マニュアルの手引き

本書は、WebLight に付属しているソフトウェアを正しくお使い頂くためのマニュアルです。ハードウェアに関してはハードウェアマニュアルをご参照ください。

○必ず最初にお読みください

項目	内容	記載ページ
序章	本装置を使用する際のお願い、保証、本書で使用されている表記記号、登録商標、ソフトウェア使用許諾契約書などについて記載しています。 <u>本装置使用前には必ずお読みください。</u>	i

○必要に応じてお読み下さい

項目	内容	記載ページ
本製品の概要	本装置の特徴・製品ラインナップ、製品ごとの搭載ソフトウェアの構成について説明しています。	1
起動と終了	主に本装置の電源投入方法や、電源管理モード、緊急時の端末の終了方法について説明しています。	5
システムドライブプロテクト	システムドライブを書き込みからプロテクトする方法、またその運用方法について説明しています。	9
タッチパネル	主にタッチパネルを使用した入力方法及び、タッチパネルユーティリティの設定、運用方法について説明しています。	17
拡張 CF ドライブ	本装置の拡張 CF スロットに挿入された CF カードの認識に関して説明しています。	24
ネットワークの設定	ネットワーク(有線 LAN、無線 LAN)の設定方法について説明しています。	25
ディスプレイの設定	ディスプレイの設定方法について解説します。	32
アプリケーションの自動起動	OS 起動時に、自動的に起動するアプリケーション、バッチを登録する方法について説明しています。	34
ソフトウェアキーボード	本装置付属のオリジナルソフトウェアキーボードを使用した文字入力の方法について説明しています。	37
ブラウザ	本装置付属のオリジナルブラウザの使用方法・運用方法について説明しています。	59

ラウンチャ	他のアプリケーションを簡単に起動するためのツールの使用方法・運用方法について説明しています。	80
アプリケーション の追加	本装置に付属していないソフトウェアをインストールする方法及びその注意事項について説明しています。	89
QFE インストーラ	Microsoft 社より提供されるセキュリティパッチのインストールに方法について説明しています。	90

目次

はじめに.....	ii
【お願い】.....	ii
【保証について】.....	ii
【表記記号について】.....	iii
【登録商標について】.....	iii
ソフトウェア使用許諾契約書.....	iv
【ソフトウェアライセンス】.....	iv
【著作権】.....	iv
【その他の権利と制限】.....	v
【保証】.....	v
【責任の制限】.....	v
マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項.....	vi
本マニュアルの手引き.....	xi
○必ず最初にお読みください.....	xi
○必要に応じてお読み下さい.....	xi
目次.....	xiii
1 本製品の概要.....	1
1-1 特徴.....	1
1-2 製品ラインアップ.....	1
1-3 ソフトウェア概要.....	2
1-3-1 OS.....	2
1-3-2 ソフトウェア仕様.....	2
1-3-3 組み込まれていない主な機能.....	4
2 起動と終了.....	5
2-1 起動モード.....	5
2-2 システムドライブの保護.....	5
2-3 起動前の準備.....	6
2-4 起動.....	7
2-5 終了.....	7
2-5-1 Windows の終了処理.....	7
2-5-2 電源ボタンによる終了.....	8

2-5-3 電源断による終了	8
2-6 緊急時の端末の終了	8
3 システムドライブプロテクト	9
3-1 システムドライブプロテクト	9
3-2 システムドライブの状態の確認	11
3-2-1 デスクトップ背景による確認	11
3-2-2 警告ダイアログによる確認	12
3-2-3 ドライブプロテクト設定ツールによる確認	12
3-3 システムドライブプロテクトの設定	14
3-3-1 プロテクトを OFF にする	14
3-3-2 プロテクトを ON にする	15
3-3-3 警告ダイアログの設定	16
3-3-4 パスワードの変更	16
4 タッチパネル	17
4-1 タッチパネルの基本操作	17
4-2 イベントセクタ	17
4-3 キャリブレーション	18
4-4 テスト	20
4-5 タッチパネルの設定	20
5 拡張 CF ドライブ	24
5-1 拡張 CF ドライブ	24
5-2 拡張 CF ドライブの認識	24
6 ネットワークの設定	25
6-1 ネットワーク接続の設定	25
6-1-1 ローカルエリア(有線 LAN)接続の設定	25
6-1-2 無線 LAN の設定	26
6-1-3 ダイアルアップ接続の設定	27
6-2 インターネット接続の設定	28
6-3 ネットワーク共有フォルダの設定	29
6-3-1 ネットワークアクセス用ユーザーカウントの登録	29
6-3-2 共有フォルダの設定	31
7 ディスプレイの設定	32
7-1 ディスプレイの設定方法	32
7-1-1 ツインディスプレイの設定	32
8 アプリケーションの自動起動	34

9 ソフトウェアキーボード.....	37
9-1 ソフトウェアキーボード.....	37
9-2 ソフトキーボード.....	38
9-2-1 ソフトキーボードの実行.....	38
9-2-2 ソフトキーボードの表示.....	38
9-2-3 ソフトキーボードのキーマップ.....	39
9-2-4 ソフトキーボードの基本操作.....	40
9-2-5 「簡単キーボード」を使用した文字の入力.....	41
9-2-6 「106 キーボード」を使用した文字の入力.....	45
9-2-7 「マクロキーボード」を使用した文字の入力.....	46
9-2-8 マクロキーの編集.....	46
9-2-9 ソフトキーボードの終了.....	47
9-2-10 ソフトキーボードの設定.....	48
9-3 テンキーボード.....	51
9-3-1 テンキーボードの実行.....	51
9-3-2 テンキーボードの表示.....	51
9-3-3 テンキーボードの操作.....	51
9-3-4 テンキーボードの終了.....	52
9-3-5 テンキーボードの設定.....	53
9-4 キーボード呼出ボタン.....	55
9-4-1 キーボード呼出ボタンの起動.....	55
9-4-2 キーボード呼出ボタンでのソフトウェアキーボードの表示.....	55
9-4-3 キーボード呼出ボタンの終了.....	56
9-4-4 キーボード呼出ボタンの設定.....	56
9-5 設定ファイルの参照.....	57
9-6 KTL ブラウザとの連携.....	58
9-6-1 「キーボード呼び出し」ボタンの取り込み.....	58
9-6-2 <INPUT>タグを使用したコンテンツ上でソフトウェアキーボードの自動起動.....	58
10 ブラウザ.....	59
10-1 KTL ブラウザの起動.....	59
10-2 KTL ブラウザの画面構成.....	60
10-2-1 ツールバー.....	61
10-2-2 アドレスバー.....	63
10-2-3 ビューエリア.....	63
10-3 KTL ブラウザの終了.....	63

10-4 ブラウザのバージョンの確認	64
10-5 ページの閲覧	64
10-6 KTL ブラウザ上の文字の入力	64
10-7 「お気に入り」の利用	65
10-7-1 お気に入りの登録	65
10-7-2 お気に入りの変更	66
10-7-3 お気に入りの削除	66
10-7-4 お気に入りの呼び出し	66
10-7-5 お気に入り情報の参照	66
10-8 KTL ブラウザの設定	67
10-8-1 KTL ブラウザ設定の起動	67
10-8-2 全体の設定	68
10-8-3 メインブラウザの設定	73
10-8-4 サブブラウザの設定	75
10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定	76
10-8-6 設定ファイルの参照	78
10-9 コマンドラインからの実行	78
10-10 サポートしているブラウザ機能	79
10-11 使用上の制限事項	79
11 ラウンチャ	80
11-1 基本的な使用方法	80
11-1-1 起動	80
11-1-2 画面の説明	81
11-1-3 ボタンを押す	82
11-1-4 ボタンからのアプリケーションの起動	82
11-1-5 サイクル画像	83
11-1-6 終了	83
11-2 KTL ラウンチャの設定	84
11-2-1 使用できる画像形式	84
11-2-2 設定ファイル	84
11-2-3 設定ファイルの参照	88
12 アプリケーションの追加	89
12-1 インストール前の準備	89
12-2 インストール時の注意事項	89
13 QFE インストーラ	90

1 本製品の概要

1-1 特徴

本製品はパソコン本体とLCD モニタが一体となったネットワーク端末です。

ポインティングデバイスとしてモニタ前面にタッチパネルを装備しており、画面に触れるだけで操作を行うことができます。

また OS に Windows XP Embedded (SP2 対応) を採用することにより、Windows テクノロジーに柔軟な対応が可能であり、NT 系 OS ならではの安定性も兼ね備えています。

- パソコン本体とLCD モニタが一体となったコンパクトボディ
- 標準装備されたタッチパネルによる簡単な操作
- ファンレス構造による静粛性
- ディスククラッシュの心配がないディスクレス構造
- 動画再生にも使用できる高パフォーマンス
- 突然電源が切れてもシステムが壊れない、システム保護機能を搭載
- LCD モニタは、高輝度タイプと標準輝度タイプの2種類を用意
- OS に Windows XP Embedded を採用。普段の使い慣れた操作感で作業が可能
- ソフトウェアキーボード、オリジナルブラウザ、ラウンチャ等のタッチパネル操作に最適化された各種ソフトウェアツールにより、簡単操作が可能

1-2 製品ラインアップ

本製品ではディスプレイサイズ、解像度、液晶輝度の組み合わせにより、以下の2つのモデルを用意しております。

ご使用の条件に合わせて最適なモデルをお選びください。

表: WebLight ラインナップ

モデル	型番	CPU	ディスプレイ サイズ	解像度	液晶輝度	システムド ライブ容量
WebLight SXP	KDT712SNGCG-1	Intel Celeron M (1GHz)	12 型	800 × 600	350cd/m ²	1GB
WebLight FXP	KDT715XNGCG-1	Intel Celeron M (1GHz)	15 型	1024 × 768	250cd/m ²	1GB

重要

- 各モデルのハードウェアに関する仕様は別冊のハードウェアマニュアルをご参照ください。

1-3 ソフトウェア概要

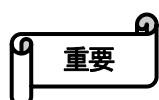
1-3-1 OS

本製品は Microsoft Windows XP Embedded (SP2 対応)の必要な機能のみを選択して、システムドライブ(オンボードの CF カード)にインストールしています。

Windows XP Embedded についての詳細は

<http://www.microsoft.com/japan/windows/embedded/xp/>

をご参照ください。



- Windows XP Embedded は英語版が基本になります。本製品では日本語サポートパッケージを適応して OS を構築しておりますが、一部日本語に対応していないリソースが存在します。

1-3-2 ソフトウェア仕様

本製品に組み込まれているソフトウェア/機能の対応を以下に示します。

分類	アプリケーション / 機能	説明	SXP	FXP
OS	Windows XP Embedded SP2	日本語サポートパッケージ 適応	○	○
Shell	Explorer Shell	デスクトップ等	○	○
セキュリティ	Windows ファイアウォール	WebLight のセキュリティ向上	○	○
システム保護	システムドライブプロテクト	システムドライブを書き込み 禁止にし、保護します。	○	○
	FBWF(File Base Write Filter)	フォルダ/ファイル単位で書き込み禁止にし、保護します。	○	○
タッチパネル制 御	Universal Pointer Device Driver	タッチパネルドライバおよび ユーティリティアプリケーション	○	○
文字入力	ソフトウェアキーボード※	タッチパネルによる文字入力	○	○
	ソフトウェアテンキーボード※	タッチパネルによる文字入力	○	○
	キーボード呼び出しボタン※	ソフトウェアキーボード表示/ 非表示制御	○	○
	Microsoft 日本語 IME	辞書は標準のみ対応	○	○
インターネット	Internet Explorer 6.0	Windows 標準ブラウザ	○	○
	KTL ブラウザ※	タッチパネルによる簡単操作 ブラウザ	○	○
アプリケーション 制御	KTL ラウンチャ※	デザインを自由に編集できるアプリケーション起動用ツール	○	○
マルチメディア	Windows Media Player 10	動画再生	○	○
	DirectX9.0c	マルチメディア用ミドルウェア	○	○
画像処理	Windows Image Acquisition (WIA)	USB カメラやスキャナを扱う ためのツール	○	○
	Windows Picture and Fax Viewer	Explorer 上から簡単に画像 ファイルを表示する機能	○	○
	Image Color Management (ICM)	カラー制御	○	○
データベース	Jet Database Engine	Microsoft Access 用データ ベース	○	○
	Jet Database 拡張機能		○	○

	MDAC	ADO,OLEDB,ODBC のサポート	○	○
印刷	Local Printing	ローカルプリンタでの印刷サポート	○	○
	Server Printing	ローカルプリンタをネットワーク上に共有リソースとして公開	○	○
	Client Printing	ターミナルサービス時の印刷サポート	○	○
ネットワーク	TCP/IP 接続	LAN への接続	○	○
	ダイアルアップ接続		○	○
	QOS	Quality of Service.	○	○
	DHCP Client		○	○
	Microsoft Network Client	マイクロソフトネットワーク	○	○
	File Sharing for Microsoft Network	ファイルの共有	○	○
	Wireless Zero Configuration サービス	無線 LAN の設定	○	○
	インターネット接続ファイアウォール	Windows XP 簡易ファイアウォール	○	○
ユーティリティ / ツール	エクスプローラ	ファイル閲覧	○	○
	コマンドプロンプト		○	○
	ペイント	イメージ編集ツール	○	○
	ワードパッド	ドキュメントエディタ	○	○
	メモ帳	テキストエディタ	○	○
	Terminal Service Client	サーバに対しリモートデスクトップ接続を行う	○	○
	ボリュームコントロール	音量調整	○	○
	Net.exe	Net コマンド	○	○
	IIS	インターネットサーバソフトウェア	○	○
	リモートデスクトップ	他 PC から WebLight にリモートデスクトップ接続できます。	○	○
	Windows Software Update Services (WSUS)	Windows XP Embedded ベース クライアントの Windows アップデートの配布を管理できるようになります。	○	○
	Regedit	レジストリエディタ	○	○
Windows XP Embedded 標準 USB ドライバ	以下の標準ドライバは組み込まれています。 <ul style="list-style-type: none"> •Generic USB Composite Device •Generic/ Standard USB Hub •USB Human Interface Device •HID Keyboard Device •Japanese USB Keyboard •HID-compliant Mouse •USB Audio Device •USB Speakers •USB Floppy Disk Drive •USB Storage Device •USB Mass Storage Device 	—	○	○

※ クオリカ株式会社 オリジナルアプリケーション



- Windows XP の機能は非常に多く複雑であるためここでは代表的なものを示しています。
上記表に記述されている機能でも条件によっては通常の Windows XP と異なる動作をする可能性があります。必ず事前に動作確認を必ず行ってください。
- 上記対応機能でも各機能のヘルプは削除されています。
- 上記以外の機能の対応については弊社営業部までお問い合わせください。

1-3-3 組み込まれていない主な機能

- システムの復元機能
- Windows Update
- ヘルプとサポートおよび各ヘルプファイル
- リモートアシスタンス
- Microsoft .NET Framework
- サーバ機能（ IFTP, Telnet 等 ）
- Outlook Express
- MSN Explorer
- Windows .NET Messenger
- ユーザー補助ユーティリティ（ Windows Narrator、スピーチ、拡大鏡等 ）
- MSMQ
- SMS

等



- Windows XP の機能は非常に多く複雑であるためここでは代表的なものを示しています。
上記以外にも対応していない機能、通常の Windows XP と異なる点がありますので、システム上で使用する
場合や、外部アプリケーション・周辺機器を使用する場合には必ず事前に動作確認等を行ってください。



- Microsoft .NET Framework 等マイクロソフトからインストーラが提供されている機能についてはインストール
することで使用できるものもあります。
- インストール可能なアプリケーション等については、弊社ホームページでご確認ください。

2 起動と終了

2-1 起動モード

本端末ではご使用状況により2つの起動モードを用意しています。

電源モード切替スイッチについての詳細は別冊の「ハードウェアマニュアル」をご参照ください。

起動モード	電源モード切替スイッチ	説明
通常モード	1	一般の PC と同様に前面の電源ボタンを用いて起動する方法です。電源ボタンを押すと端末が起動します。起動後に電源ボタンを押すとシャットダウンが実行されます。(起動中の電源ボタンの機能は Windows により設定可能です。)
キオスクモード	2	AC アダプタへの電源投入・切断がそのまま端末の起動・終了になります。電源ボタンは無効になります。キオスク端末や装置に組み込んで使用する場合など、別に電源スイッチを用意する場合に使用します。

2-2 システムドライブの保護

本製品にはシステムドライブ(Cドライブ)を保護する機能(システムドライブプロテクト)があります。

この機能の状態により、端末の起動・終了時の注意事項が変わりますのでご注意ください。

実際の操作は【3. システムドライブプロテクト】で説明しておりますのでこちらをご参照ください。

プロテクト	説明
ON	<p>システムドライブ(Cドライブ)が保護された状態です。この状態でシステムドライブへの書き込み(設定変更含む)を行うと、実際には RAM に用意された仮想領域に行われ、Cドライブへの書き込みは行われません。</p> <p>プロテクトが ON の場合、電源切断による端末の終了が可能です。また RAM 上に書き込まれたデータはシステムに保存されないため、次回起動時には元の状態で起動します。</p>
OFF	<p>システムドライブに書き込みが許可された状態です。この状態でシステムドライブへ行われた操作は次回起動時にも反映されます。</p> <p>この場合は必ずシャットダウン処理を行って端末を終了してください。</p> <p>端末の設定変更やアプリケーションのインストール等はこの状態で行う必要があります。</p>



- 出荷時はシステムドライブプロテクト ON の状態になっています。

2-3 起動前の準備

本端末を起動する前に、周辺機器の接続等を行います。各接続は以下の注意を守って行ってください。

AC アダプタ

AC アダプタは必ず電源コンセントに差し込まない状態で端末に接続してください。



- AC アダプタに電気が供給されている状態で AC アダプタを端末に接続すると、端末が故障する恐れがあります。

拡張 CF

拡張 CF スロットは必ず端末起動前に装着してください。
また、取り外す場合も必ず端末の電源を落としてから行ってください。



- 端末に電源が供給されている状態で、拡張 CF スロットに CF カードを装着してもドライブとして認識されません。また、CF カードを破壊する恐れがあります。
- 端末が起動されている状態で、拡張 CF スロット上の CF カードを取り外すと、システムの動作が不安定になります。

キーボード/マウス

PS/2 コネクタに接続する場合は端末起動前に行ってください。



- 端末が起動している状態で PS/2 コネクタにデバイスを接続すると、システムの動作が不安定になります。
- マウスを使用する場合は、必ず付属の PS/2 分岐ケーブルをご使用ください。

USB 機器

機器によってはあらかじめドライバのインストールや設定が必要なものがあります。
ドライバのインストールや設定については各機器の説明書の記述に従ってください。



- 動作確認済みの機器については弊社ホームページをご参照ください。

2-4 起動

電源ボタンを押すと(キオスクモードでは電源投入)、Windows XP Embedded のロゴマークが表示され、しばらくすると Administrator アカウントで自動ログインし、デスクトップ画面が表示されます。



デスクトップ画面

2-5 終了

終了は以下の 3 種類の方法があります。

2-5-1 Windows の終了処理

[スタート]—[シャットダウン]メニューにより、「Windows のシャットダウン」ダイアログが表示されます。再起動やシステムドライブプロテクト OFF の状態でシャットダウンを行う場合はこの方法で端末を終了してください。



- [スタート]—[ログオフ]は実行しないでください。本端末は Administrator の自動ログインでの使用を前提にしています。新規ユーザーを登録することは可能ですが、ログインダイアログではソフトキーボードが使用できないため、必ずキーボードの接続が必要になります。

誤ってログオフした場合は、出荷状態から特に変更をしていなければそのままユーザー：Administrator、パスワード：無しで[OK]を押せばログインできます。



- キオスクモードでシャットダウン処理を行った場合、Windows は終了しますが、端末は電源が入った状態(電源ランプが点灯)になります。この場合は一度電源の切断を行ってください。再度電源を投入すれば端末が起動します。

2-5-2 電源ボタンによる終了

起動モードが通常モードの場合、電源ボタンを押すとシャットダウン処理に入り、そのまま端末が終了します。



- 電源ボタンの機能は、コントロールパネルの「電源オプション」-「詳細設定」の「電源ボタン: コンピュータの電源ボタンを押したとき」の設定で変更することができます。

2-5-3 電源断による終了

本製品はハードディスクを使用していないため、システムドライブプロテクトが ON の状態であれば、直接電源を切断することで端末を終了できます。たとえば装置全体の電源を一つのスイッチで操作したい場合などに便利です。



- 電源切断による終了は必ずシステムドライブプロテクト ON の状態で行ってください。
また、システムドライブ以外の拡張ドライブやデータベースへの書き込みなどを行っていないことを確認して行ってください。
これらへの書き込み中に電源が切断されると、ドライブのファイルシステムやデータベース構造が破壊される恐れがあります。

2-6 緊急時の端末の終了

アプリケーションが暴走したり、端末がハングアップしたりしてしまった場合など端末をリセットする必要がある場合は、以下の方法で端末を終了してください。

- 端末をリセットする場合は、裏面インターフェース部にあるリセットスイッチを押してください。
- 起動モードが通常モードの場合は、前面スイッチを長押し(5 秒程度)することで、端末を強制終了できます。
- キオスクモードの場合は、リセットスイッチを押すか電源を切断してください。

3 システムドライブプロテクト

3-1 システムドライブプロテクト

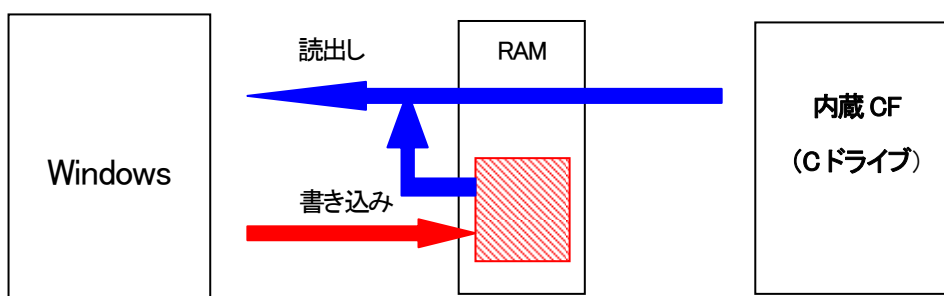
本端末はシステムドライブとしてボード上に CF カードを内蔵しており、Windows XP Embedded 上では C ドライブとして認識されています。

システムドライブプロテクトはこのシステムドライブを書き込み禁止にし、システムの保護を行います。

システムドライブプロテクトが有効(ON)の場合、システムドライブ上の変更(レジストリ等の操作を含む)はすべて RAM 上に用意された領域に行われます。このため OS はシステムドライブに対し通常と同様に書き込みを含むアクセスを実行しながら動作しますが、内蔵 CF カードへの書き込みは実際には行われず、CF カードの内容が保護されます。

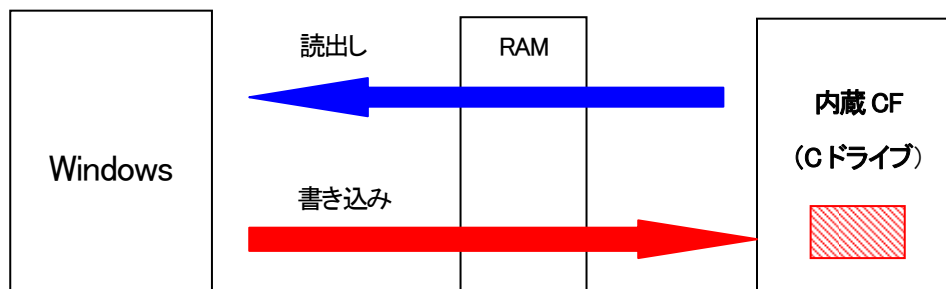
端末を終了または電源が切断されると、RAM 上に書き込まれた内容はすべて消去されるため、次回起動時には前回と同様の状態から起動開始されます。これにより端末運用時の不特定なトラブル(突然の電源切断、いたずらや意図しない設定変更や、使用上の失敗など)からシステムを守り、書き込み回数に制限がある内蔵の CF カードの寿命を延ばすことが可能です。

システムプロテクト ON 時の C ドライブへのアクセスイメージ



- システムドライブプロテクト ON の状態では、通常より RAM を余分に消費します。大量に RAM 領域を使用するアプリケーションを実行する場合はご注意ください。
- システムドライブプロテクト機能の設定の確認、ON、OFF の設定の切り替えは Administrators 権限を持ったユーザのみが行うことができます。新たにユーザを作成してそのユーザでシステムドライブプロテクト機能の設定の確認、ON、OFF の設定の切り替えを行う際はユーザに Administrator 権限を追加してください。

システムドライブプロテクトが無効(OFF)になっていると、システムドライブへの書き込みがすべて許可され、レジストリ、ファイル構造の変更がすべて内蔵 CF カードに反映されます。
C ドライブへのアプリケーション・ドライバ等のインストールやレジストリの保存を伴うシステムの変更はこの状態で行います。



ドライブプロテクト OFF 時の C ドライブへのアクセスイメージ



注意

- システムドライブプロテクト OFF の状態でネットワークを接続して作業する必要がある場合は、必ずセキュリティ・ウィルス対策を行っているネットワーク環境で行ってください。
- システムドライブプロテクト OFF の状態で端末を終了するには、必ず Windows のシャットダウン処理を行ってください。システムドライブへの書き込み中に電源が切断されると、システムが破壊される恐れがあります。

3-2 システムドライブの状態の確認

システムドライブプロテクトが現在どのような状態にあるか確認するための方法を紹介します。

3-2-1 デスクトップ背景による確認

システムドライブプロテクトの状態により、デスクトップ背景が変化します。

プロテクト OFF の場合は、システムが保護されていないことの注意を喚起するための背景になります。

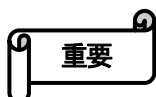


プロテクト ON



プロテクト OFF

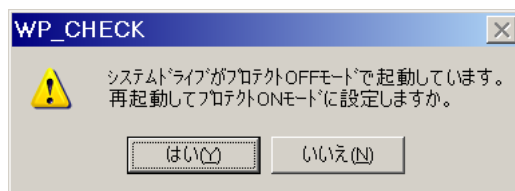
システムドライブの状態によるデスクトップ背景



- 「画像のプロパティ」でデスクトップ背景を指定している場合、そちらが優先されるため、プロテクト OFF の状態でも上記プロテクト OFF 背景は表示されません。この場合には別の方法で状態を確認してください。
- Administrators 権限を与えていないユーザでログインした場合、上記のプロテクト OFF 背景は表示されません。

3-2-2 警告ダイアログによる確認

システムドライブプロテクトでは起動時に、プロテクト OFF であることを知らせる警告ダイアログを表示することができます。
(起動時サービス)



システムドライブプロテクト OFF メッセージダイアログ

この機能を有効にしておくと、プロテクト OFF の状態の端末をすぐにプロテクト ON で再起動することができます。

本機能の設定は【3-3-3 警告ダイアログの設定】で説明しています。

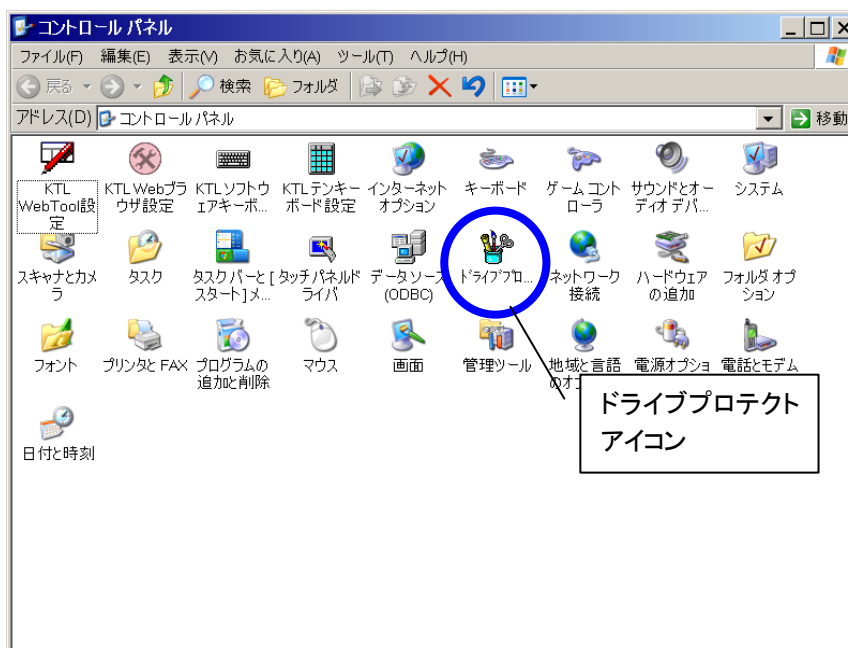


- 初期状態ではこの機能は有効になっています。

3-2-3 ドライブプロテクト設定ツールによる確認

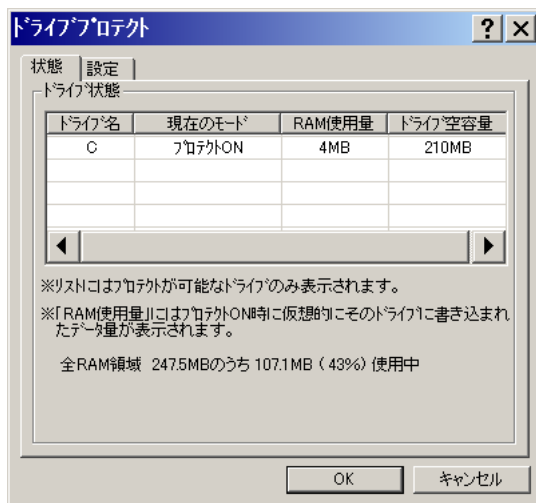
コントロールパネル内のドライブプロテクト設定ツールで現在のドライブの状態を確認できます。

[コントロールパネル]—[ドライブプロテクト]アイコンをダブルクリックすると設定ツールが起動します。

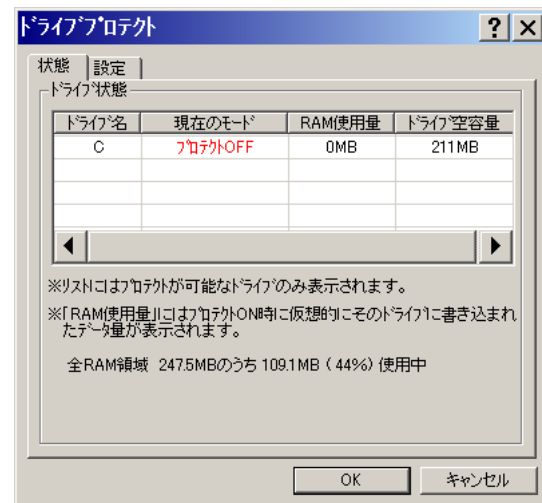


ドライブプロテクトアイコン

設定ツールが起動すると以下の様に、現在のシステムドライブ(Cドライブ)の状態が表示されます。



プロテクト ON の場合



プロテクト OFF 場合

ドライブプロテクト設定ツール

3-3 システムドライブプロテクトの設定

システムドライブプロテクトの設定はドライブプロテクト設定ツールによって行います。

3-3-1 プロテクトを OFF にする



3-3-2 プロテクトを ON にする



3-3-3 警告ダイアログの設定



3-3-4 パスワードの変更



4 タッチパネル

4-1 タッチパネルの基本操作

本装置はポインティングデバイスとして表示面にタッチパネルを装備しており、画面にふれるだけで操作を行うことができます。

クリック	ボタン・メニューなど、画面上の目的の部分を1回タッチします。
ダブルクリック	目的の部分を続けて2回タッチします。このとき、タッチの位置が大きくずれるとダブルクリックとして認識しない場合があるのでご注意ください。
ドラッグ	アイコンやウィンドウタイトルバーなどをタッチし、タッチしたまま移動します。
右クリック	後述するイベントセクタで右クリックを選択した場合、次のタッチが右クリックとして認識されます。



- シャープペンやドライバーなど、先の鋭利なもので本装置のタッチパネルを押さないでください。傷や故障の原因となります。



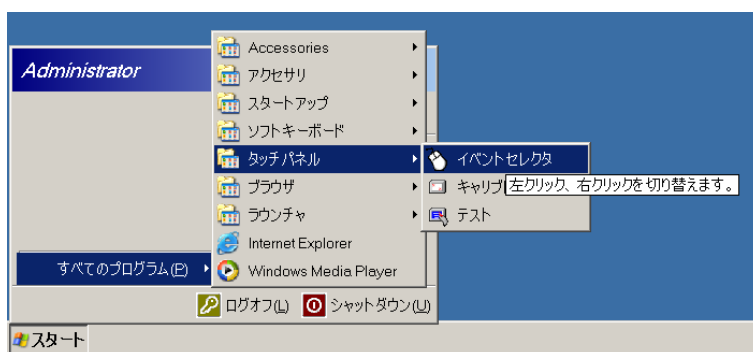
- 発生イベントやタイミング等がマウスとすべて同じではないため、アプリケーションによってはマウスを使用した場合と異なる動作をする可能性があります。

4-2 イベントセクタ

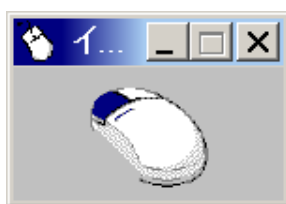
タッチパネルのタッチを右クリックに切り替えるアプリケーションです。

以下の手順で右クリックへの切り替えを行います。

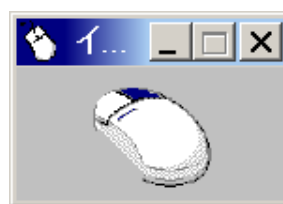
1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[イベントセクタ]を選択します。
2. 起動したイベントセクタ上のマウスをクリックすると、マウスの絵が右クリックの状態になります。
3. この状態でクリックを行うと、右クリックとして認識されます。
4. 右クリックは1回だけです。右クリックを行うと自動的にイベントセクタは左クリックの状態に戻ります。再度右クリックを行う場合にはもう一度上記の手順を行ってください。



スタートメニューからのイベントセクタの実行



左クリック



右クリック

イベントセクタ

4-3 キャリブレーション

キャリブレーションはタッチパネル上のポイントと Windows 上の画面の座標を一致させるための補正を行う機能です。タッチした点と実際にポイントされた位置がずれている場合はキャリブレーションを行ってください。

1. 本装置をシステムドライブプロテクト OFF の状態で起動します。
2. [スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[キャリブレーション]を選択します。
3. キャリブレーション画面が全画面に表示され、キャリブレーションポイントが矢印で表示されます。
4. キャリブレーションポイントを順番にタッチしていきます。
5. すべてのキャリブレーションポイントのサンプリング(デフォルト 9 点)が終わると、キャリブレーションも終了します。



キャリブレーション画面

重要

- キャリブレーションポイントのタッチはスタイラスペンなどなるべく先端が細くて硬くないもので行ってください。
- キャリブレーションが終了した後、データ保存・タッチパネルの初期化を行うため、しばらくの間はタッチパネルが効かない状態になります。故障ではありませんので、しばらく待ってから操作を始めてください。
- キャリブレーションデータはWindows上に保存されます。システムドライブがプロテクトONの状態だと次回起動時にはキャリブレーションの結果が反映されません。必ず、プロテクトOFFの状態での補正を行ってください。
- キャリブレーションに失敗すると、タッチパネル上でスタートメニューの選択などの必要な操作ができなくなる場合があります。この場合はマウス等を本体に接続し、再度キャリブレーションを実行してください。
- キャリブレーションが終了したら速やかにシステムプロテクトをONにすることをお勧めします。

4-4 テスト

本アプリケーションでタッチパネルの補正が正しく実行されているかを確認することができます。

キャリブレーションを行った後などの確認にご使用ください。

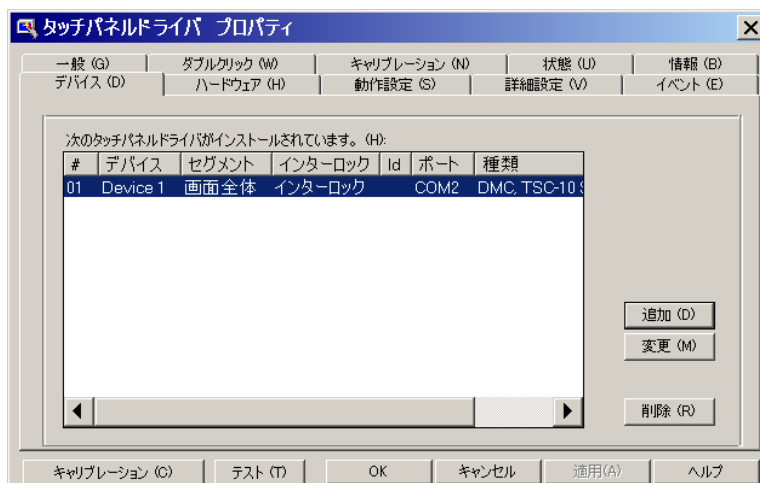
1. [スタート]-[すべてのプログラム]-[タッチパネル]-[テスト]を選択します。
2. テスト画面が全画面に表示されるので、適当な位置をタッチしてください。入力された座標が点で表示されます。



- 本ツール上でドラッグして曲線を描いた場合、直線を接続したような線が描画されますが、動作不良ではありません。これは本端末が指でのタッチ操作を前提としているため、少しのポイント移動は無視するように設定されているための現象です。

4-5 タッチパネルの設定

タッチパネルドライバの詳細な設定はコントロールパネルの「タッチパネルドライバ」設定ツールで行うことができます。



タッチパネルドライバ設定ツール



- タッチパネルドライバのデフォルト設定は本製品に最適な設定となっておりますので、なるべくそのままご使用ください。設定変更により起きたトラブルは保障できない場合がありますのでご注意ください。
- タッチパネルドライバの設定変更が必要な場合は、まずシステムドライブプロテクト ON の状態で動作を確認することを強く推奨します。

以下に、各設定の簡単な説明をします。

◆ デバイス

この設定は変更しないでください。

◆ ハードウェア

この設定は変更しないでください。

◆ 動作設定

クリックタイム	本装置では使用しません。
タップタイム	本装置では使用しません。
リフトオフタイム	「リフトオフパケットを使用」が無効になっている場合に、実際にタッチが離れてから、タッチが離れたと認識するまでの時間を設定します。
安定化	カーソルが一定位置にとどまる度合いを設定します。タッチ入力位置の移動が設定された値以上になるまでカーソルは移動しません。接地面が大きい指などでタッチのブレが生ずる場合、この値で使いやすさが調整できます。
平均化	カーソルが一定位置にとどまる度合いを設定します。平均化パラメータはカーソルの移動速度をゆるやかにします。
リストオフパケットを使用	有効の場合、タッチを離れた瞬間に、離れたと認識します。 無効の場合、タッチを離れた瞬間に、離れたと認識するまでの時間はリフトオフタイムの設定の値に依存します。 通常は有効の状態でご使用ください。 例えば手書き文字認識などでドラッグ中のチャタリングを無視したい場合はリフトオフパケットを無効にし、リフトオフタイムで調整します。

◆ 詳細設定

この設定は変更しないでください。

◆ イベント

この設定は変更しないでください。

◆ 一般

アイコンをタスクバーに表示

チェックを入れると、タスクトレイにイベントセレクトとタッチパネル設定アイコンが表示されます。



キャリブレーション後の確認

キャリブレーションの終了時にキャリブレーションデータの保存を行うかどうかのメッセージダイアログの表示/非表示を設定します。

キャリブレーション時のビープ音

本装置では使用しません。

◆ ダブルクリック

ダブルクリックの設定とテストを行います。

時間 一回目と二回目のタッチ間の許容時間を設定します。値が大きいほど許容時間は長くなります。

高さ 二回目のタッチの一回目からの Y 方向のずれの許容量(ドット数)を設定します。

幅 二回目のタッチの一回目からの X 方向のずれの許容量(ドット数)を設定します。

◆ キャリブレーション

キャリブレーションの設定を行います。

キャリブレーションの
ポイント数

キャリブレーションポイント数を設定します。設定した場合のポイントの位置はキャリブレーションパターンに表示されます。デフォルトは9です。

キャリブレーションの
タイムアウト時間

キャリブレーションのタイムアウト時間を設定します。

デフォルトでは 99 秒になっていますが、本ツール上では 0～60s で設定可能です。特に問題がなければ変更しないでください。

スタート

キャリブレーションポイントの位置を設定します。設定値は画面の縁からの距離の割合で表され、初期値は 5% に設定されています。

特に問題がなければ変更しないでください。

◆ 状態

現在のタッチパネルコントローラの状態を表示します。

◆ 情報

タッチパネルドライバのバージョン情報等を表示します。

5 拡張 CF ドライブ

5-1 拡張 CF ドライブ

本体側面にはドライブ増設用に2つの拡張 CF メモリカードスロット（CF スロット 0、CF スロット 1）があります。

一般 PC の HDD の増設と同様に、CF カードを装着することでドライブを増設することができます。

外部アプリケーション・ドライバのインストール、保存が必要なアプリケーションデータの格納などに利用することができます。



- ドライブプロテクト機能は拡張 CF ドライブには対応しておりません。書き込みアクセス中に電源切断等があるとデータが破壊される恐れがあります。
- CF カードの着脱は必ず本体の電源が切断された状態で行ってください。
- 本 CF スロットは PCMCIA スロットではないため、CF メモリ以外の CF 型通信カード等のご使用はできません。
- 本 CF スロットは TrueIDE モード対応・電源電圧 5V の Compact Flash カードのみ対応しています。
- CF カードは弊社推奨品をご使用ください。弊社推奨品以外の CF カードで認識可能なものでも PIO モードで認識されるものでは装置全体の処理速度が遅くなる場合があります。
- その他、条件によって使用できない CF もありますので、弊社ホームページまたは営業部にご確認ください。

5-2 拡張 CF ドライブの認識

CF カードを1枚のみ使用する場合は、セカンダリマスターであるスロット 0 に挿入してください。この場合、装着したカードは D ドライブとして認識されます。

CF カードを同時に2枚装着した場合、Windows XP ではスロット 1 に挿入したカードを D ドライブ、スロット 0 に挿入したカードを E ドライブとして認識します。

ただし、Windows XP ではドライブとして認識されたデバイス情報はレジストリに保存されるため、システムドライブプロテクトが OFF の状態で一旦認識された CF カードは、それ以後どちらのスロットに挿しても同じドライブ名で認識されます。

例えば、システムドライブプロテクトが OFF の状態でスロット 0 およびスロット 1 に装着し認識させた CF カードは、次回起動時にスロットを入れ替えても、前回と同じドライブ名で認識されます。



- すでに認識・登録された CF のドライブ名を変更するには、[コントロールパネル]—[管理ツール]にある「コンピュータの管理」の「ディスクの管理」で「ドライブ文字とパスの変更」を実行してください。

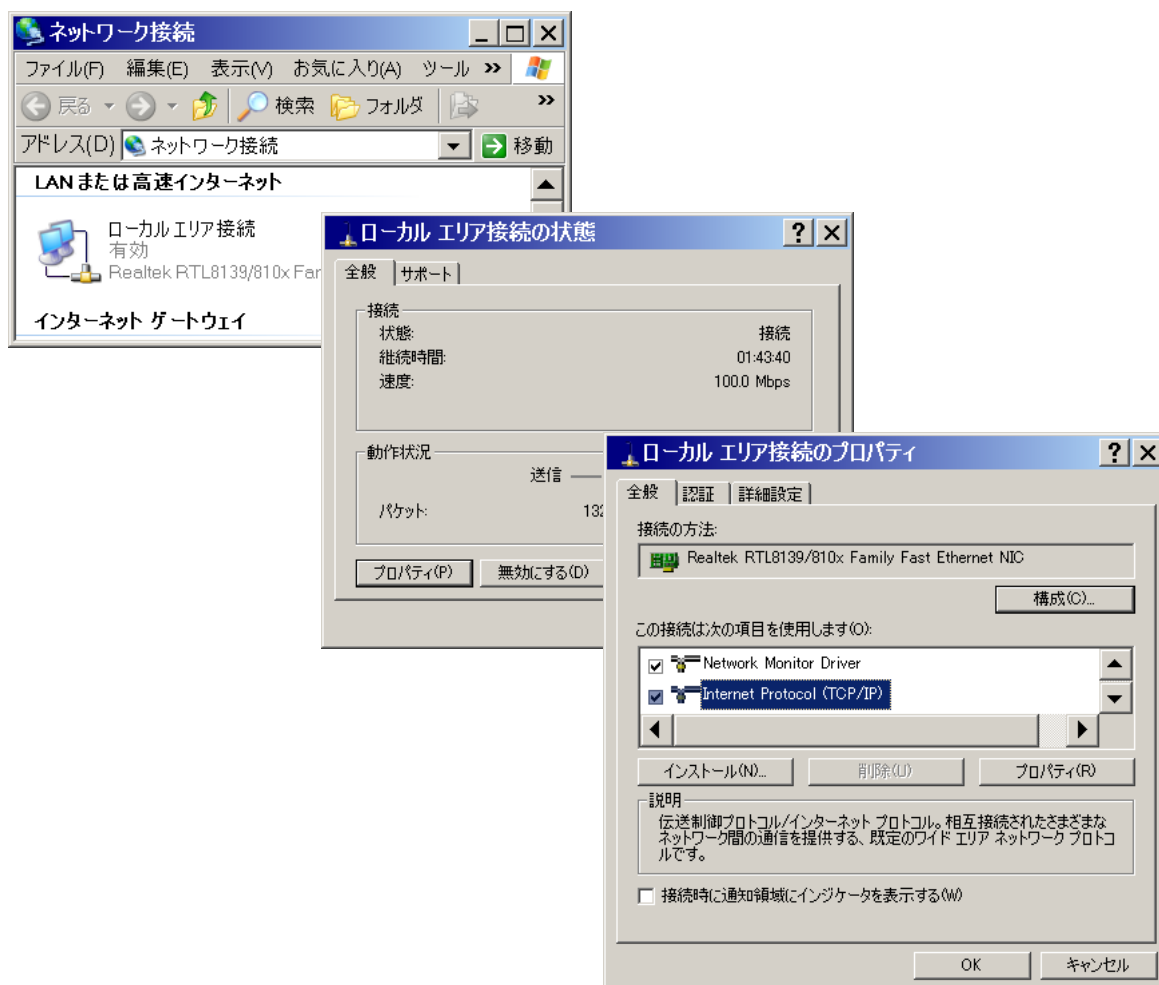
6 ネットワークの設定

6-1 ネットワーク接続の設定

本製品は OS に Windows XP Embedded SP2 を採用しているので、ネットワーク接続の設定も基本的に Windows XP と同様の手順で行うことができます。

6-1-1 ローカルエリア(有線 LAN)接続の設定

本製品で標準装備の LAN ポートを使用したネットワーク接続の設定は、[コントロールパネル]—[ネットワーク接続]の「ローカルエリア接続」で行います。実際の設定は Windows XP の設定手順に従って行ってください。



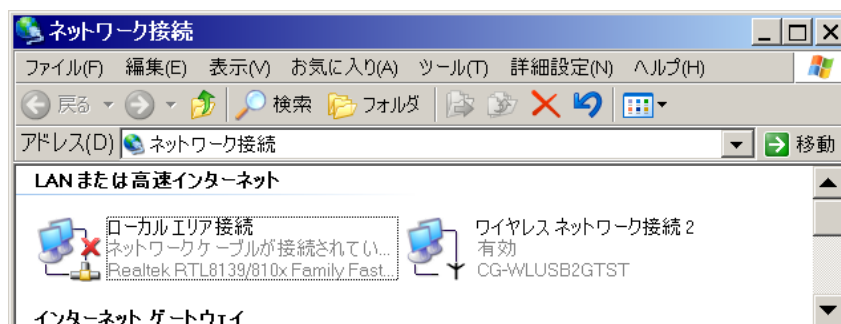
ローカルエリア接続の設定

注意

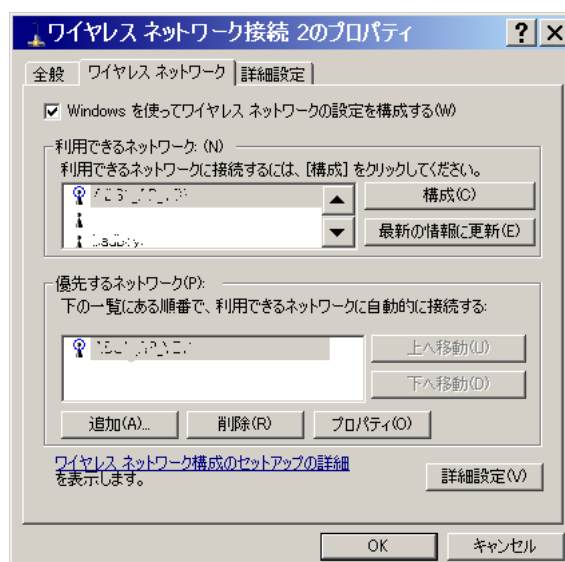
- ネットワーク設定はシステムドライブプロテクトを OFF にした状態で行う必要があります。ネットワークに接続する前に設定を終了して、ドライブプロテクトを ON の状態にしてからネットワークに接続することを推奨します。
- ネットワークに接続しながら設定を行う場合には、ネットワークがウィルス等に十分に対策されていることを確認の上行ってください。

6-1-2 無線 LAN の設定

USB ポートに USB 無線 LAN アダプタを接続した場合などには、[コントロールパネル]—[ネットワーク接続]に「ワイヤレス ネットワーク接続 *」(* は数字)が表示されます。実際の設定は Windows XP の設定手順に従って行ってください。



ワイヤレスネットワーク接続

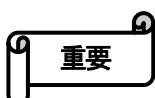


ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ



警告

- 本製品で無線通信機器を使用する場合、医療機器に影響を与え、事故の原因になる可能性があります。医療施設等で無線通信機器を使用する場合には各施設の指示に従ってください。



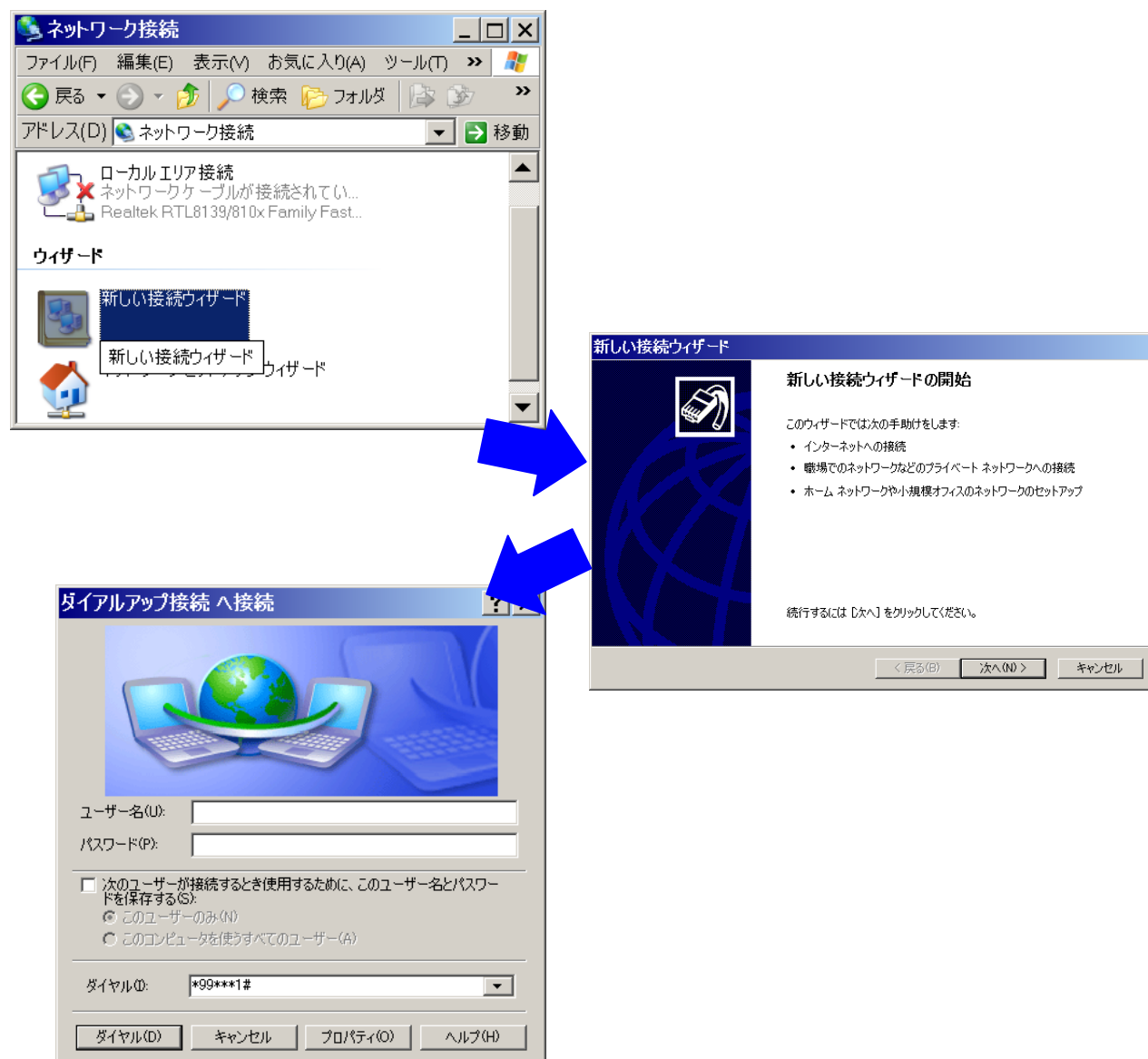
重要

- USB 無線 LAN 機器を USB に接続する場合は、ドライバ・ユーティリティ等のインストールが必要です。ドライバ・ユーティリティのインストール・設定等については各機器の説明書に従ってください。

6-1-3 ダイアルアップ接続の設定

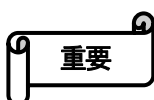
USB ポートに USB 通信カードアダプタを接続し、携帯電話や PHS のデータ通信でインターネット等に接続する場合は、[コントロールパネル]－[ネットワーク接続]の「新しい接続ウィザード」でダイアルアップ接続の設定を新規に作成します。

実際の設定は Windows XP および通信機器の設定手順に従って行ってください。



警告

- 本製品で無線通信機器を使用する場合、医療機器に影響を与え、事故の原因になる可能性があります。医療施設等で無線通信機器を使用する場合には各施設の指示に従ってください。



重要

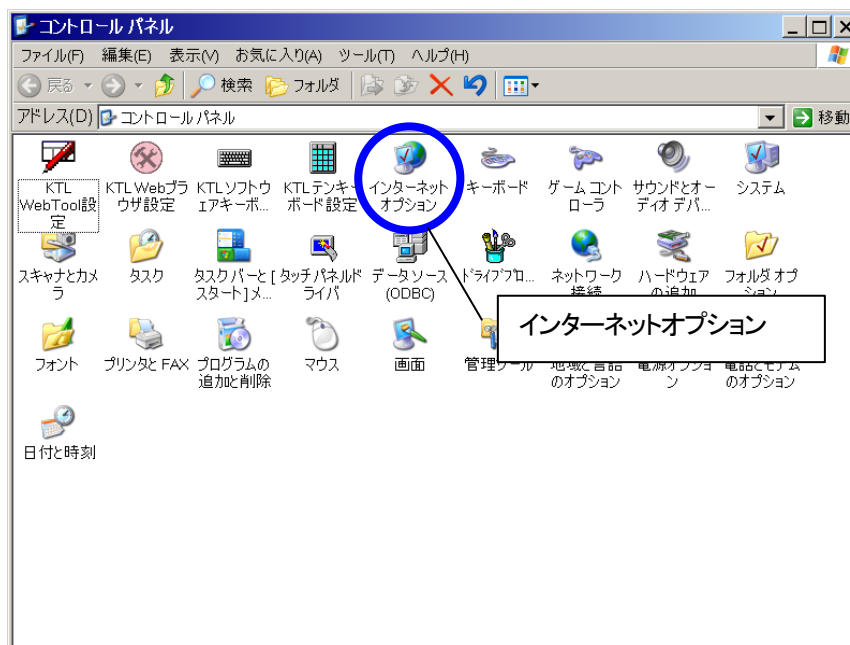
- USB 通信機器を USB に接続する場合は、ドライバ・ユーティリティ等のインストールが必要です。ドライバ・ユーティリティのインストール・設定等については各機器の説明書に従ってください。

6-2 インターネット接続の設定

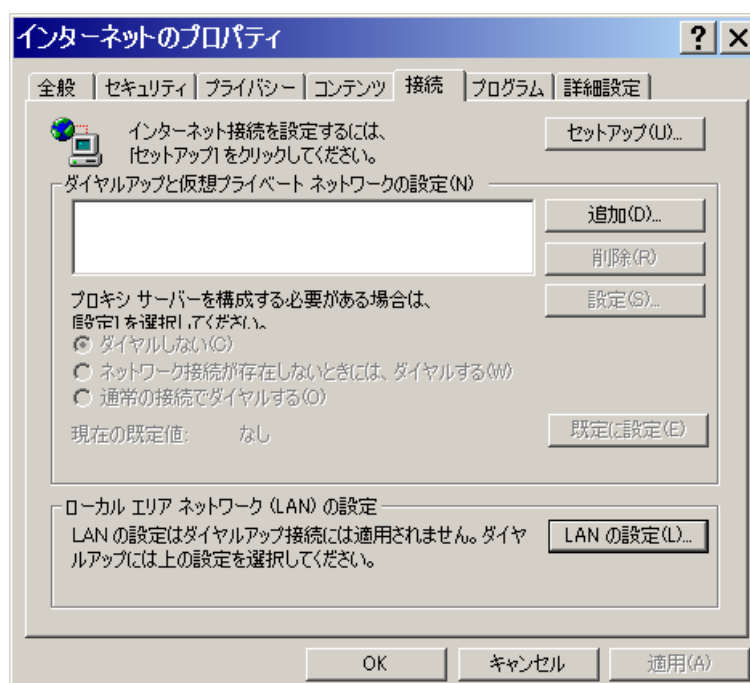
ネットワークの設定が完了したら、次にネットワーク環境に応じてインターネット接続の設定を行います。

[コントロールパネル]—[インターネットオプション]でプロキシ等の設定を行ってください。

実際の設定は Windows XP の設定手順に従って行ってください。



インターネットオプション



インターネットのプロパティ

6-3 ネットワーク共有フォルダの設定

WindowsXPのファイル共有には「簡易ファイル共有」と「従来の共有」がありますが、本端末では「従来の共有」のみサポートしています。

「従来の共有」では Guest アカウントによる簡易共有設定は許可されておらず、適切なユーザーアカウントを設定し共有アクセス許可と NTFS ファイルアクセス許可を手動で設定する必要があります。

6-3-1 ネットワークアクセス用ユーザーアカウントの登録

本端末は出荷時には自動ログイン用にパスワードを設定していないAdministratorアカウントのみが登録されています。

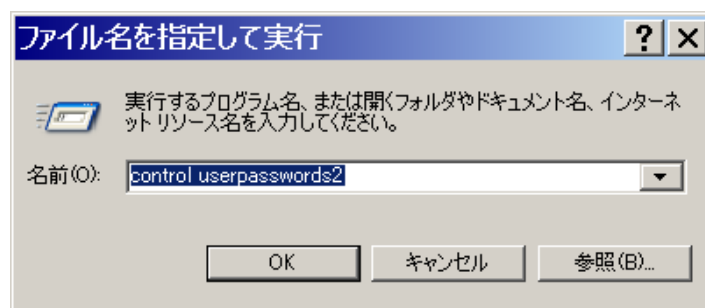
パスワード無しのアカウントはネットワーク共有アクセスには使用できないため、別途ネットワークアクセス用のアカウントを登録する必要があります。



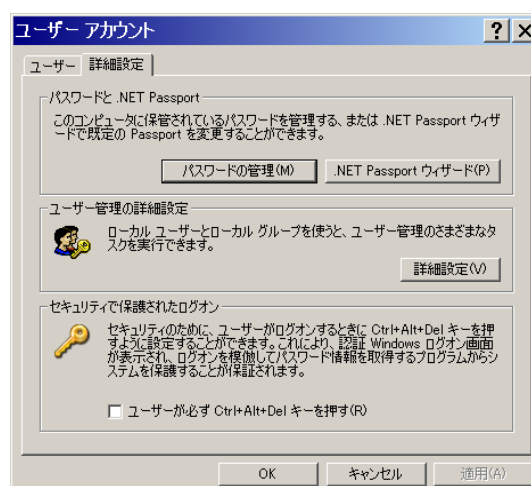
- 自動ログイン用の Administrator アカウントにパスワードを設定すると、自動ログインできなくなります。

ここでは、ユーザー名:NetUser、パスワード:net、グループ:Users でネットワークアクセス用のアカウントを作成する手順を例として説明します。

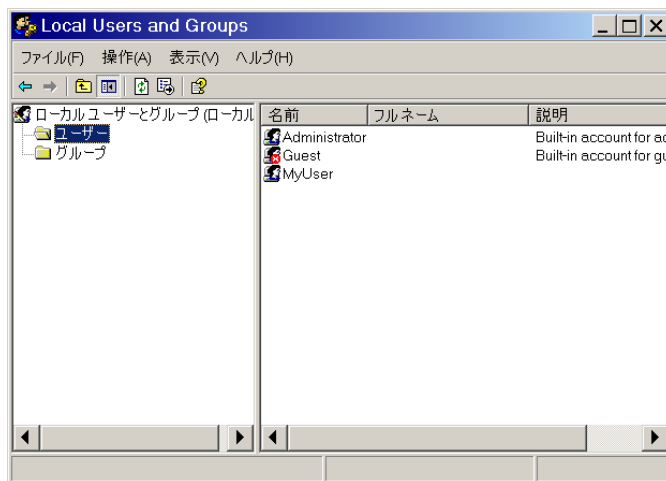
1. 端末をシステムドライブプロテクト OFF の状態で起動します。
2. [スタート]—[ファイル名を指定して実行] で “control userpasswords2”と入力し[OK]を押します。



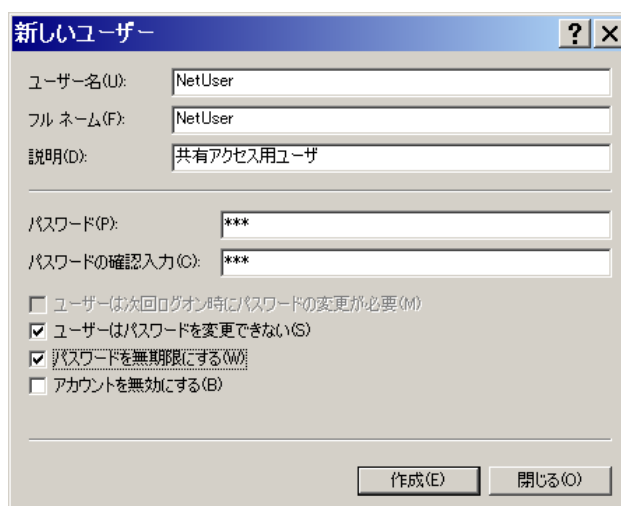
3. 「ユーザーアカウント」ダイアログが表示されるので、[詳細設定] タブを選択します。



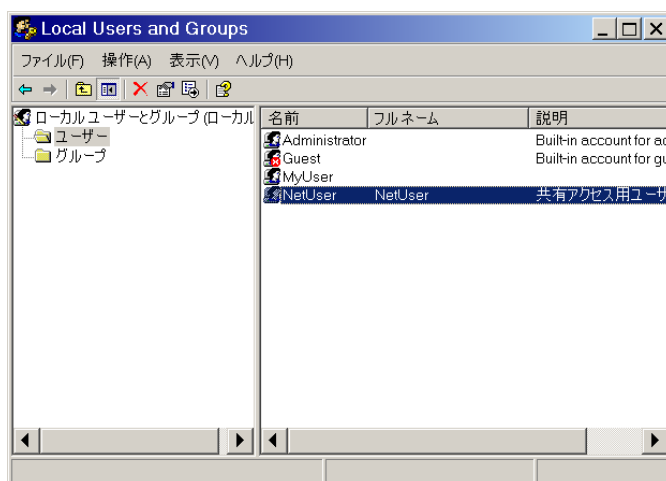
4. 「詳細設定」 ボタンを押し、「Local Users and Groups」ダイアログを表示します。
5. 左側のカテゴリツリーから「ユーザー」を選択し、[操作]—[新しいユーザー] を実行します。



6. ユーザー名、パスワード、パスワードの設定を入力し [作成] を押します。



7. 「Local Users and Groups」ダイアログで “NetUser” アカウントが表示されていることを確認します。

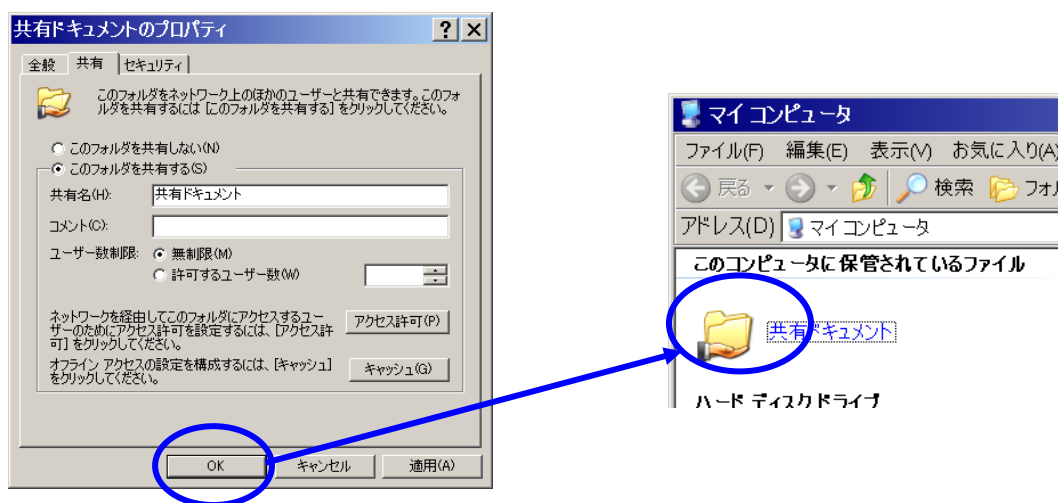


8. 「Local Users and Groups」および「ユーザーアカウント」ダイアログを終了します。

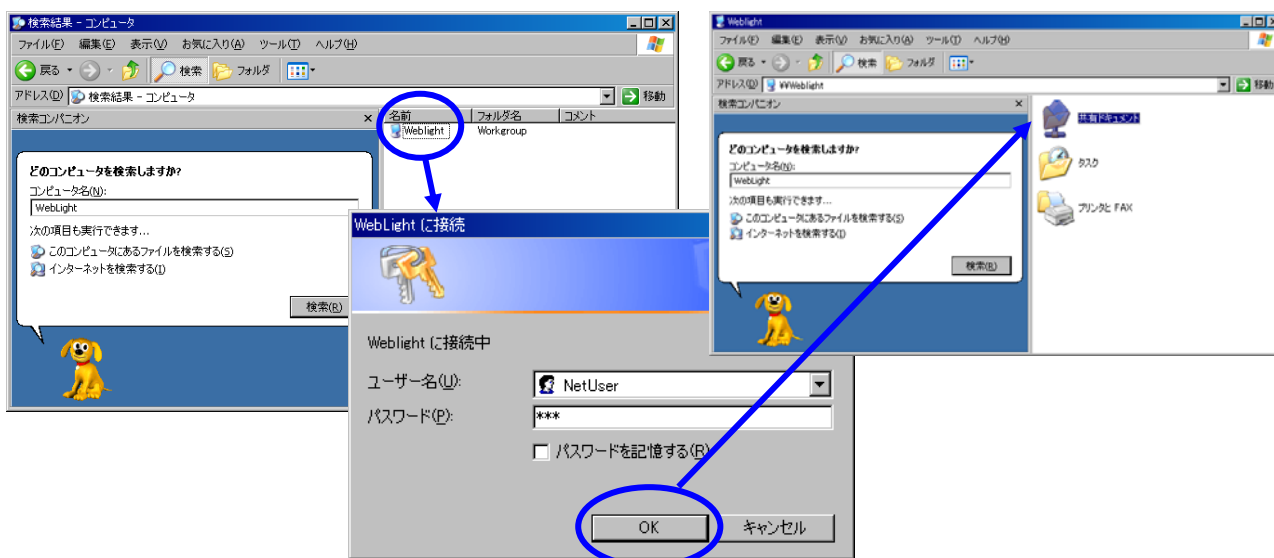
6-3-2 共有フォルダの設定

次に、「共有ドキュメント」フォルダを共有フォルダに設定し、他の PC から本端末上の共有ドキュメントを参照するまでの手順を説明します。

1. 「マイコンピュータ」を表示します。
2. 「共有ドキュメント」を選択し、[ファイル]→[プロパティ]メニューで「共有ドキュメントのプロパティ」を表示します。
3. 「共有」タブでフォルダの共有設定を行い、[OK] を押します。
4. 「マイコンピュータ」で「共有ドキュメント」のアイコンが共有モードになっていることを確認します。



5. システムドライブプロテクトを ON にして、端末を再起動します。
6. 端末がネットワークに接続されていることを確認し、他の PC 上からコンピュータの検索を行います。
7. 検索されたコンピュータにアクセスすると、接続のためのアカウントを入力するダイアログが表示されるので、ユーザー名: NetUser、パスワード: net を入力します。
8. 「共有ドキュメント」フォルダが共有フォルダとして表示されていることを確認します。



7 ディスプレイの設定

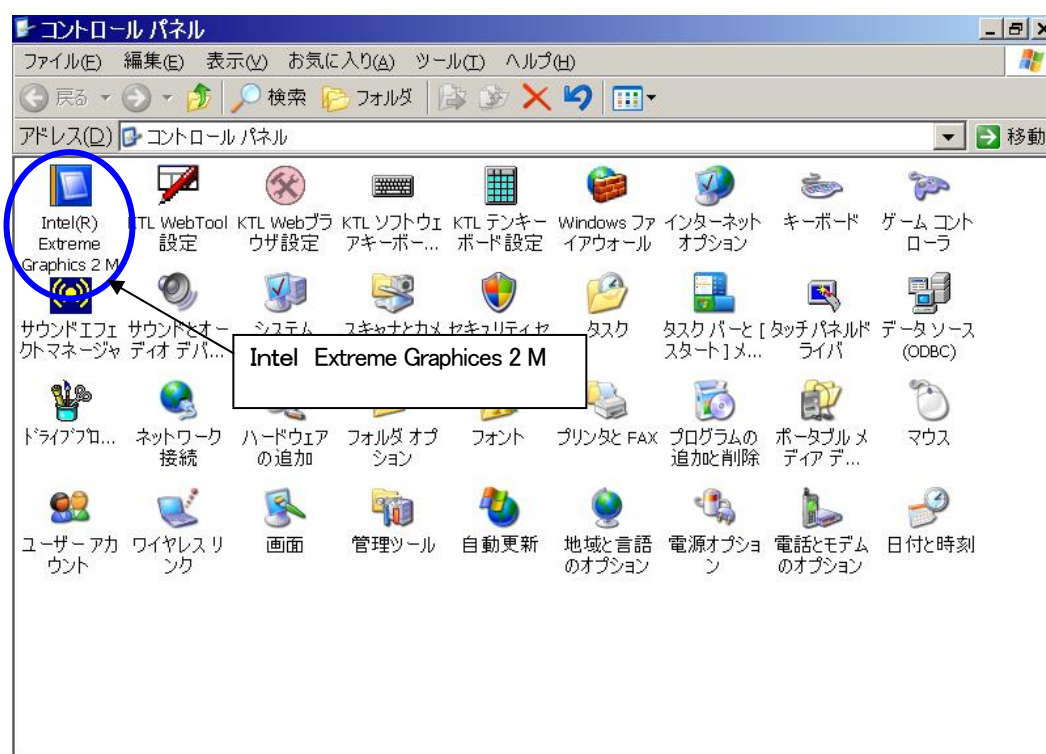
7-1 ディスプレイの設定方法

本製品は本製品のアナログ RGB 出力端子に外部ディスプレイを接続し、以下の設定を行うことで外部ディスプレイに画面出力を行うことができます。

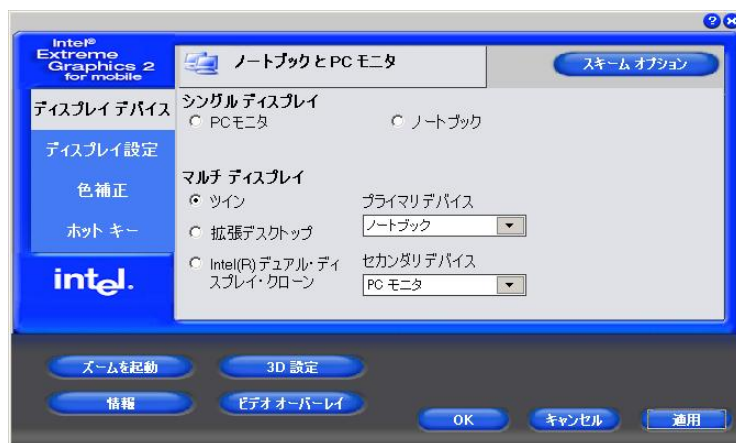
7-1-1 ツインディスプレイの設定

アナログ RGB 出力端子に接続した外部ディスプレイに本製品と同様の画面を出力するための方法を解説します。

1. アナログ RGB 出力端子に外部ディスプレイを接続します。
2. [コントロールパネル]-[Intel(R) Extreme Graphics 2 M]を実行して、「Intel® Extreme Graphics 2 for mobile」を表示します。



Intel Extreme Graphics 2 M

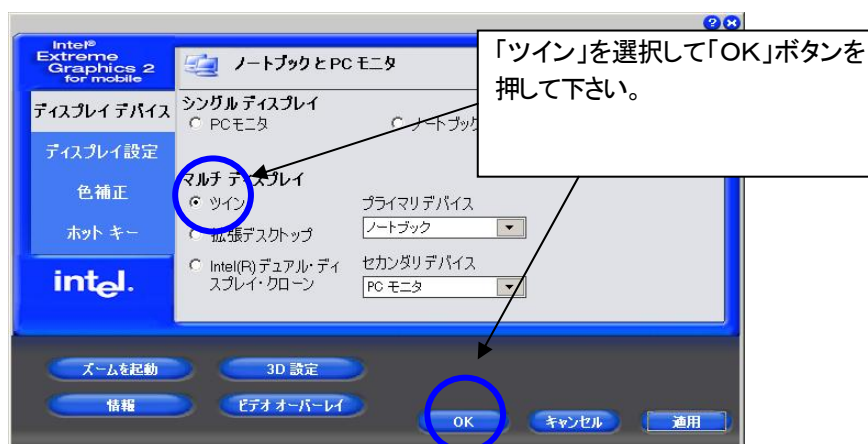


Intel® Extreme Graphics 2 for mobile

注意

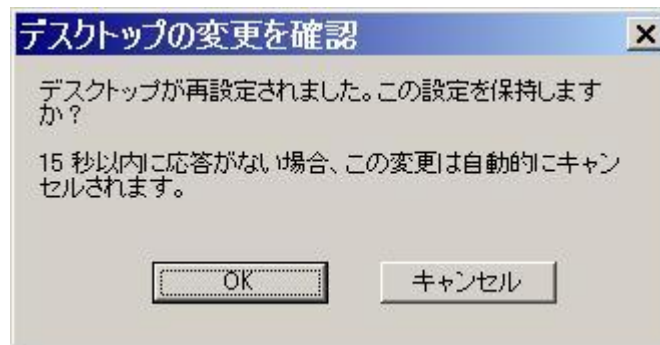
- アナログ RGB 端子に外部ディスプレイが接続が上手くいっていない場合は「この機能を使用する前に、コンピュータにディスプレイを2台接続する必要があります。ディスプレイをもう一台接続してください。」という表示があります。この際はアナログ RGB 端子に外部ディスプレイが正しく接続されているかを再度ご確認ください。

- 「ディスプレイデバイス」タブの「マルチディスプレイ」のラジオボタンを「ツイン」に設定して OK ボタンを押してください。



ツインディスプレイの設定

4. 「デスクトップの変更を確認」ダイアログで「OK」ボタンを押してください。



デスクトップの変更を確認



- 本アプリケーションは Windows 起動時にアナログ RGB 端子に外部ディスプレイが接続が接続されていない場合、本設定はクリアされます。
本設定をドライブプロテクトが OFF で行いドライブプロテクトを ON にして使用する場合には Windows 起動時にアナログ RGB 端子に外部ディスプレイを接続した状態で起動するようにしてください。

8 アプリケーションの自動起動

本製品にはスクリプトファイルを用いたアプリケーションの自動起動を行うための仕組みをあらかじめ用意しております。

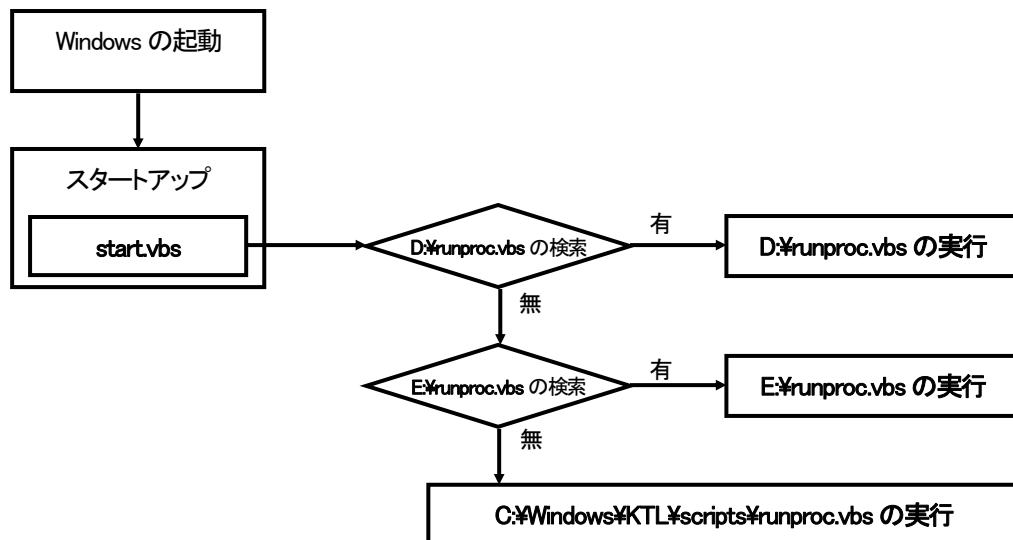
この仕組みを利用すれば、システムドライブの内容を変更しなくても、拡張ドライブ上でアプリケーションの自動起動処理を管理することができます。また、VB スクリプトを使用しているため、起動順序や条件分岐を使った制御など様々な目的に適した処理を自由に構築することが可能です。

アプリケーションの自動起動は C:\Windows\KTL\Scriptsf フォルダにある 2 つのスクリプトファイルの組み合わせで実行されます。

- | | |
|---------------------|---|
| start. vbs | Windows のスタートアップで起動され、各ドライブの指定位置の runproc.vbs の検索・実行を行います。D:\runproc. vbs, E:\runproc. vbs.の順序で検索を行い、見つけたスクリプトファイルを実行します。どちらも見つからない場合は、C:\Windows\KTL\scripts\runproc.vbs を実行します。 |
| runproc. vbs | アプリケーションの起動処理を実際に記述する VB スクリプトファイルです。

C:\Windows\KTL\scripts\runproc.vbs はサンプルスクリプトです。いくつかのアプリケーションを自動起動する場合のスクリプト例がコメントアウト文として記述されています。スクリプトを作成するときの参考にしてください。 |

アプリケーションの自動起動フロー



例えば、ユーザーアプリケーションを D ドライブ上に用意し、D ドライブのルートにそのアプリケーションを起動する runproc.vbs を置けば、システムドライブを変更しなくてもユーザーアプリケーションが自動起動します。



重要

- VB スクリプトについては、VB スクリプトの関連資料をご参照ください。
- アプリケーションによっては、システムドライブプロテクトを OFF の状態でインストールする必要があります。



注意

- start.vbs は消去しないでください。本製品のシステムにとって必要な機能が実行されなくなる恐れがあります。

C:\Windows\KTL\Scripts\runproc.vbs

```

Option Explicit
Dim objWshShell
Set objWshShell = WScript.CreateObject("WScript.Shell")

' ラウンチャの起動の例
objWshShell.Run """"C:\Documents and Settings\All Users\スタート メニュー\プログラム\ラウンチャ\KTL ラウンチャ.lnk""", 1, 0

' ブラウザの起動の例
objWshShell.Run """"C:\Documents and Settings\All Users\スタート メニュー\プログラム\ブラウザ\KTL ブラウザ.lnk""", 1, 0

' IE の全画面起動の例
objWshShell.Run """"C:\Program Files\Internet Explorer\IEEXPLORE.exe"" -k", 1, 0

' wait の例 (5 秒待機の場合)
WScript.Sleep 5000

```



- よく使うと思われるスクリプトを例として記述しています。実際のご使用時は行先頭のコメントアウト記号の'を削除してご使用ください。
- この例では直接実行ファイルを実行するのではなくショートカットを指定しています。これは作業フォルダを画像リソースの参照位置として指定することが必要なためです。
- 直接 C:\Windows\KTL\Scripts\ 上の start.vbs または unproc.vbs を変更し、次回端末起動時にも反映させる場合には、システムドライブプロテクトを OFF の状態で編集する必要があります。

9 ソフトウェアキーボード

9-1 ソフトウェアキーボード

本製品ではタッチパネルでの文字入力のためにオリジナルソフトウェアキーボードを用意しています。

ソフトキーボード (Alternative Keyboard.exe)

英数字、記号、日本語の文字入力を行うことができます。

「簡単キーボード」、「106 キーボード」、「マクロ入力」の 3 つのキーマップがあり、状況に従って簡単に切り替えてお使いになれます。



ソフトキーボード

テンキーボード (Tenkeybd.exe)

会計処理等、数値入力のみ必要なシーンでテンキー入力を行うことができます。



テンキーボード

キーボード呼出ボタン (WebToolXP.exe)

ソフトキーボードまたはテンキーボードを呼び出すためのボタンツールです。指定キーボードの表示非表示をボタンの ON/OFF で制御することができます。



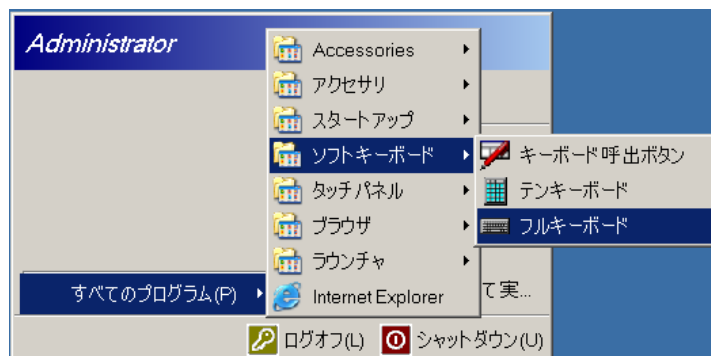
キーボード呼出ボタン

9-2 ソフトキーボード

9-2-1 ソフトキーボードの実行

ソフトキーボードは常駐型のアプリケーションです。ソフトキーボードを使用するにはあらかじめ起動しておく必要があります。工場出荷状態ではスタートアップに登録してあります。自動で起動しない場合には、スタートアップからショートカットを削除してください。

ソフトキーボードを初めて起動する場合や、一度終了したものを再起動したい場合は、[スタート]－[すべてのプログラム]－[ソフトキーボード]－[フルキーボード]メニューから実行します。



ソフトキーボードのスタートメニューからの実行

9-2-2 ソフトキーボードの表示

ソフトキーボードが実行されると、タスクトレイ上にソフトキーボードアイコンが表示されます。



タスクトレイ上のソフトキーボードアイコン

このアイコンをクリックすると、ソフトキーボードが表示されます。

(ソフトキーボードを閉じる(非表示)には、ソフトキーボード上の終了ボタンを押してください。)

9-2-3 ソフトキーボードのキーマップ

ソフトキーボードでは3種類のキーマップから状況に応じて選択して文字入力を行うことができます。
キーマップの切り替えはタブで簡単に行えます。

簡単キーボード 50音およびABC配列のキーマップです。
PCのキーボードに不慣れなユーザーにも簡単に入力ができます。



簡単キーボードのキーマップ

106 キーボード 市販の106キーボードとほぼ同じキー配列です。PCのキーボードに慣れたエンドユーザー向けです。



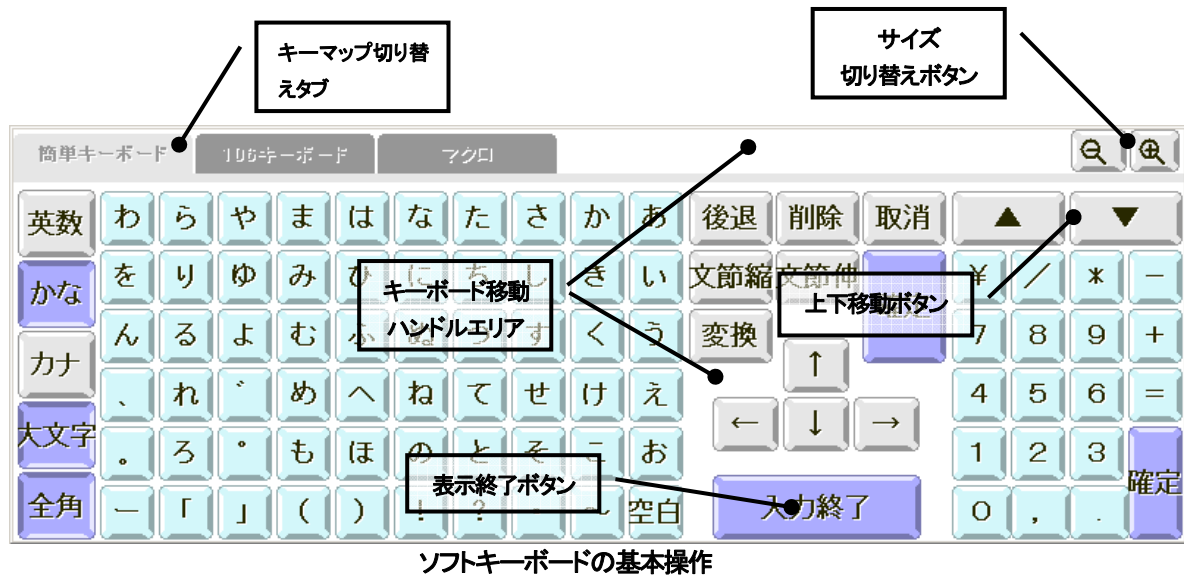
106 キーボードのキーマップ

マクロキーボード 定型文を入力する場合に使用します。25個の青色のキーには自由に文字列を登録することができます。



マクロキーボードのキーマップ

9-2-4 ソフトキーボードの基本操作



キーマップの切り替え



キーボード上部のキーマップ切り替えタブをクリックすることで「簡単キーボード」と「106 キーボード」と「マクロキーボード」を切り替えることができます。

キーボードの移動

キーボード移動ハンドルエリアを押さえながらドラッグするとキーボードを自由に移動することができます。

また、キーボード移動ボタン   を押すことで、画面の最上部/最下部へ一度に移動することができます。

キーボードのサイズ切り替え

サイズ切り替えボタン   を押すとキーボードのサイズを変えることができます。キーボードのサイズには大、中、小の 3 種類があり、ボタンを押すたびに順番に切り替わります。デフォルトは中サイズです。

ただし、表示が SVGA の場合には中、小の 2 種類です。

キーボードの表示を終了

キーボードの表示を終了する場合は、キーボード終了ボタンを押します。キーマップによってボタンのデザインが以下のようになります。

簡単キーボード:

入力終了

106 キーボード:

Close

















マクロキーボード:

終了

9-2-5 「簡単キーボード」を使用した文字の入力

簡単キーボードには「英数キーマップ」、「ひらがなキーマップ」と「カタカナキーマップ」があり、キーボード左端の [英数]、[かな]、[カナ] キーを押すことで文字マップを切り替えて入力を行います。

各キーの機能

	「英数キーマップ」に切り替えます。
	「ひらがなキーマップ」に切り替えます
	「カタカナキーマップ」に切り替えます。
 	大文字と小文字を交互に切り替えます。
 	全角と半角を交互に切り替えます。
	カーソルの左横にある文字を1文字削除します。文字を選択している場合は削除になります。
	カーソルの右横にある文字を1文字削除します。文字を選択している場合は削除になります。
	変換直後は変換の取消し。 もう一度クリックすると変換前の文字の削除になります。
	変換するときの文字の区切りを縮めます。
	変換するときの文字の区切りを伸ばします。
	入力した文字を変換します。
	入力を確定します。
	カーソル位置を移動させます。
	簡単キーボードのテンキー部分です。数字の入力に使用します。 106 キーボードのテンキー部分と異なり、全角/半角キーの状態に従って数字を入力します。 例外として「/」「*」「-」「+」は常に最初は半角入力となります。 (入力後[変換]キーを押すと全角に変換することができます。)

英数字の入力

簡単キーボードで、英数字・記号を入力するには、[英数]キーを選択し、キー配列を英数字モードにし、英数字・記号キーを押します。

大文字／小文字は、[大文字]／[小文字] キーをクリックして切り替えます。

全角／半角は、[全角]／[半角] キーをクリックして切り替えます。



簡単キーボード：英数キー配列・大文字・全角



簡単キーボード：英数キー配列・小文字・全角

重要

- 全角で入力した場合、入力後に[確定]キーを押して入力を確定する必要があります。

ひらがなの入力

簡単キーボードで、ひらがなを入力するには、[かな]キーを選択し、キー配列をひらがなモードにし、50音順に並んだひらがなキーから目的のキーを押します。

ひらがなの小文字(っ、ゃ、ゅ、ょ等)の入力は、[大文字]／[小文字] キーを[小文字]にして行います。

入力した文字を確認したら [確定] キーをクリックして入力を確定します。



簡単キーボード：ひらがなキー配列・大文字・全角



簡単キーボード：ひらがなキー配列・小文字・全角

重要

- ひらがなキーマップでは半角は選択できません。

カタカナの入力

簡単キーボードで、カタカナを入力するには、[カナ]キーを選択し、キー配列をカタカナモードにし、50音順に並んだカタカナキーから目的のキーを押します。

カタカナの小文字(ッ、ャ、ュ、ヨ等)の入力は、[大文字]／[小文字] キーを[小文字]にして行います。

入力した文字を確認したら [確定] キーをクリックして入力を確定します。



簡単キーボード: カタカナキー配列・大文字・全角



簡単キーボード: カタカナキー配列・小文字・全角



- カタカナキーマップでは半角は選択できません。半角カタカナを入力したい場合は、一度全角で入力した文字を [変換] キーで半角カタカナに変換してください。

漢字の入力

漢字を入力する場合は「ひらがな」または「カタカナ」キーマップで文字を入力し、[変換]、[文節縮]、[文節伸] キーを使用して漢字に変換した後、[確定] キーをクリックします。

9-2-6 「106 キーボード」を使用した文字の入力

「106 キーボード」は一般の 106 日本語キーボードとほぼ同じキー配列となっており、操作もほぼ同じです。ただし、いくつか異なる操作がありますのでご注意ください。



106 キーボード

[Shift]、[Ctrl]、[Alt]を使用した入力

本製品のタッチパネルは 2 点押しができないため、通常のキーボードと同様に、[Shift]を押しながら別のキーを押すといった操作はできません。ただし、本ソフトキーボードの[Shift]、[Ctrl]、[Alt] キーは押されるとその状態でロックされ、次に押されたキーと組み合わせられて入力されます。[Ctrl]+[Alt]+[Print Screen]などの、これらのキー同士の組み合わせも可能です。

Windows ショートカットキー

本ソフトキーボードでは一部の Windows ショートカットキーを無効にしています。これは、ショートカットキーやタスクマネージャーによるエンドユーザからのアプリケーションの強制終了などのトラブルを防止するためです。以下に無効になっているショートカットキーを示します。

[Shift]+[Ctrl]+[Esc]	タスクマネージャーの表示
[Alt]+[F4]	アクティブプログラムの終了
[Alt]+[Space]	アクティブウィンドウのショートカットメニューを開く
[Ctrl]+[F4]	同時に複数のドキュメントを開けるプログラムでアクティブなドキュメントを閉じる
[Ctrl]+[Esc]	「スタート」メニューを表示する
[Alt]+[Tab]	開いているアイテムを順に切り替える
[Alt]+[Shift]+[Tab]	開いているアイテムを逆順に切り替える
[Ctrl]+[Alt]+[Del]	タスクマネージャーの表示
[Alt]+[Esc]	現在開いている項目が順に切り替わる
[Alt]+[Shift]+[Esc]	現在開いている項目が逆順に切り替わる
[Ctrl]+[P]	印刷
[Ctrl]+[Back Space]	文字列確定のアンドウ

重要

- NumLock は有効の状態です。
- キーボードを 106 キーボードから簡易キーボードに切り替えた場合、「Alt」キー、「Caps」キーなどのトグル状態は解除されます。
- キーボードを非表示にしてから再度表示した場合、「Alt」キー、「Caps」キーなどのトグル状態は解除されます。
- 106 キーボードでは直接入力が入力モードの初期状態です。また、この状態から[半角/全角]キーなどを押して IME を ON にした場合は、ローマ字入力モードに初期化されます。

9-2-7 「マクロキーボード」を使用した文字の入力

マクロキーボードでは、URL やメールアドレスを入力するのに便利な文字列を登録した固定キーと、任意の文字列を登録可能なマクロキーを用意しています。各キーを押すと、登録された文字列を一度に入力することが可能です。



マクロキーボード

9-2-8 マクロキーの編集

マクロキーボードでは最大 25 個のマクロキーを表示することが可能です。マクロキーに割り当てられる文字列は、

- C:\Program Files\KTL\SOFTKB\macro.txt

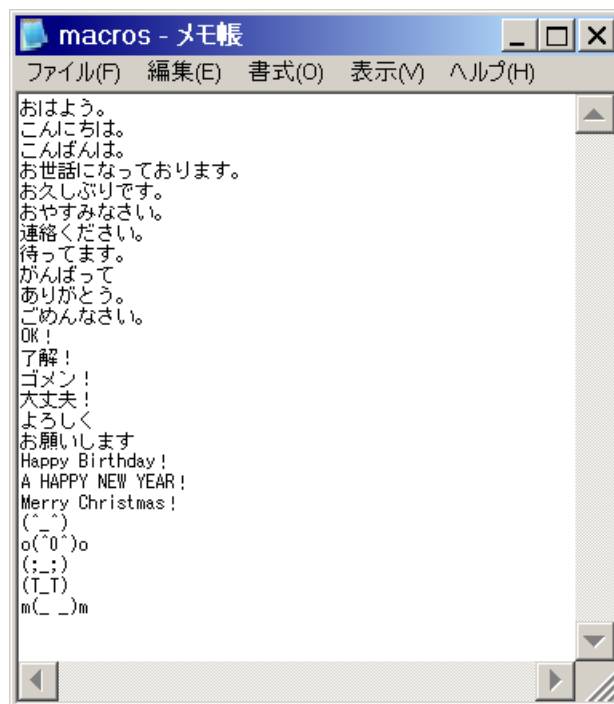
に登録されています。

macro.txt では改行コードを文字列の区切りとして文字列を登録します。(改行だけの行が見つかったら、キーの登録はそこで終了します。)

一つのキーには 256 文字まで登録できます。

重要

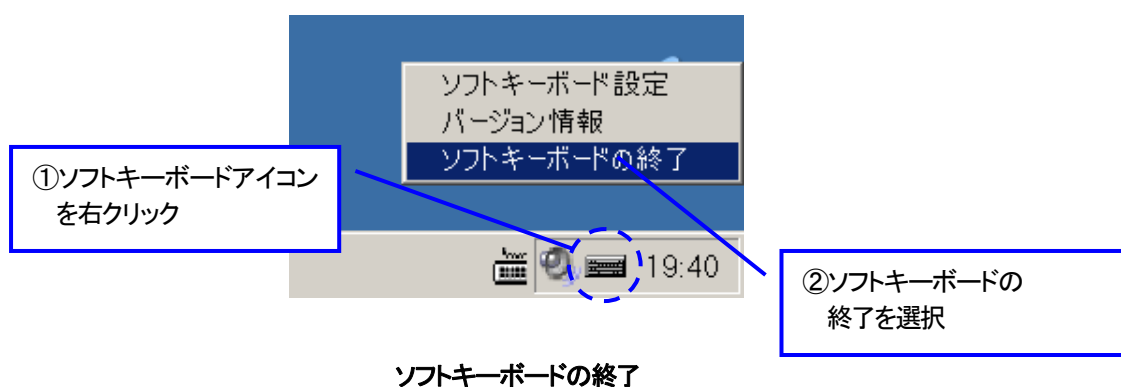
- マクロキーの大きさは固定のため、長い文字列はマクロキー上にすべて表示できない場合があります。
- macro.txt の変更を保存するにはシステムドライブプロテクトが OFF の状態で編集する必要があります。



macro.txt の例

9-2-9 ソフトキーボードの終了

バックグラウンドで動作しているソフトキーボードを終了する場合には、タスクトレイ上にあるソフトキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「ソフトキーボードの終了」を選択します。



ソフトキーボードの終了

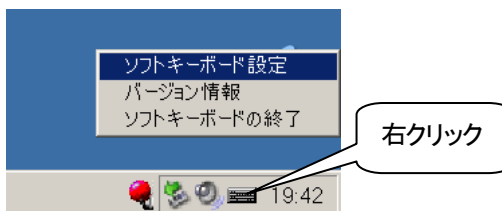
9-2-10 ソフトキーボードの設定

ソフトキーボードの初期状態はソフトキーボード設定ツールを用いて変更することができます。

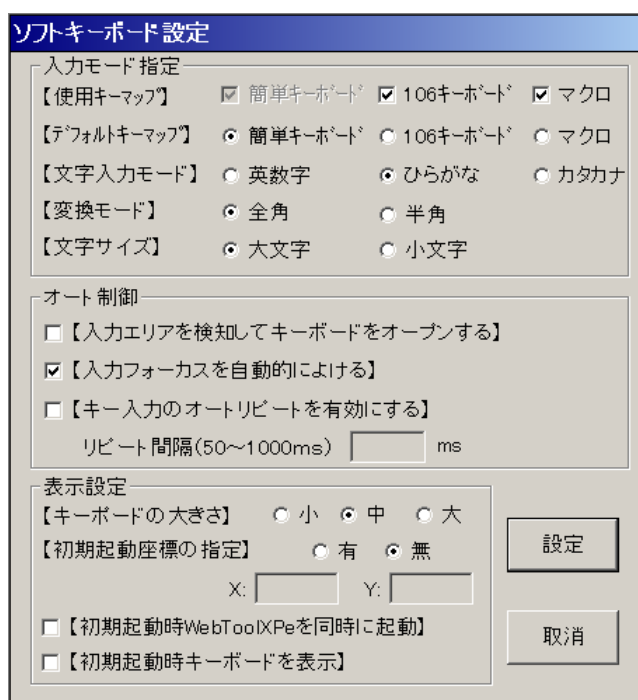
ソフトキーボード設定ツールは、コントロールパネルの「KTL ソフトキーボード設定」アイコンをダブルクリックするか、タスクトレイ上にあるソフトキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「ソフトキーボード設定」を選択することで呼び出すことができます。



コントロールパネルの
KTL ソフトキーボード設定アイコン



ソフトキーボード設定



ソフトキーボード設定ツール

重要

- ソフトキーボードの変更を反映させるには、設定終了後にソフトキーボードの終了と再起動が必要です。
- ソフトキーボードの設定画面が表示されている場合、テンキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。
- 入力モードはソフトキーボードで初めてキー入力が行われた際に変更されます。

キーマップ指定	
使用キーマップ	<p>表示するキーボードを指定します。</p> <p>チェックが入っていないキーマップはタブが表示されず、選択できなくなります。 (デフォルトキーマップは常に選択されます。)</p>
デフォルトキーマップ	<p>キーボードが初めて起動する際に表示されるソフトキーボードのキー配列を設定します。</p>
文字キーマップ	<p>「簡単キーボード」を最初に表示した時の、キーボードの文字キーマップを指定します。「106キーボード」の文字キーマップにはこの設定は反映されません。</p>
変換モード	<p>文字キーマップの設定を「英数字」にした場合の、「簡単キーボード」オープン時の全角/半角モードを指定します。</p> <p>文字キーマップを「ひらがな」または「カタカナ」にした場合は、この設定に関係なく全角入力となります。</p> <p>「106キーボード」、「マクロキーボード」の文字変換モードにはこの設定は反映されません。</p>
文字サイズ	<p>文字キーマップの設定を「英数字」にした場合の、「簡単キーボード」オープン時の大文字/小文字のキーマップを指定します。</p> <p>文字キーマップを「ひらがな」または「カタカナ」にした場合は、この設定に関係なく大文字入力となります。</p> <p>※ 「106キーボード」、「マクロキーボード」の文字サイズにはこの設定は反映されません。</p>

オート制御	
入力エリアを検知して キーボードをオープンする	<p>この項目を有効にすると、カレットを持つアプリケーションを起動またはアクティブにした場合に、自動的にソフトキーボードを表示します。</p> <p>また、カレットが表示された状態でソフトキーボードを非表示にした場合、カレットを持つアプリケーションをクリックするとソフトキーボードが再表示されます。</p>
入力フォーカスを 自動的によける	<p>この項目を有効にすると、入力カレットの表示位置とソフトキーボードが重なった場合に、カレットが隠れない位置にソフトキーボードを移動します。</p> <p>※ ソフトキーボードのサイズが大サイズの場合、入力フォーカスの位置がキーボードを移動しても隠れてしまい移動できない場合があります。(入力カレットが画面中央に表示されている場合)この場合は、一旦ソフトキーボードのサイズを小さくして、回避してください。</p>
キー入力のオートリピートを 有効にする	<p>この項目にチェックを入れると、ソフトキーボードのキー入力のオートリピート入力が可能となります。「リピート間隔」で設定した時間キーを押し続けると、文字が再入力されます。</p> <p>間隔は 50ms～1000ms の間で指定できます。</p>

表示設定	
キーボードの大きさ	表示するソフトキーボードの大きさの初期設定を指定します。 デフォルトでは「中」サイズとなっています。
初期起動座標の指定	この項目を「有」に設定すると、ソフトキーボードを起動後はじめて表示する座標をピクセル単位で指定することができます。デフォルトは X 座標 0、Y 座標 0(ピクセル)となっています。 この項目を「無」に設定すると、ソフトキーボードの初回表示位置は、画面中央下部となります。設定はソフトキーボードの再起動後に有効になります。
初期起動時 WebToolXPe を同時に起動	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボード (Alternative Keyboard.exe) の起動時に、WebToolXPe(キーボード呼出ボタン)も同時に起動します。
初期起動時キーボードを表示	この項目にチェックを入れると、ソフトキーボード (Alternative Keyboard.exe) の起動時にキーボードを表示します。



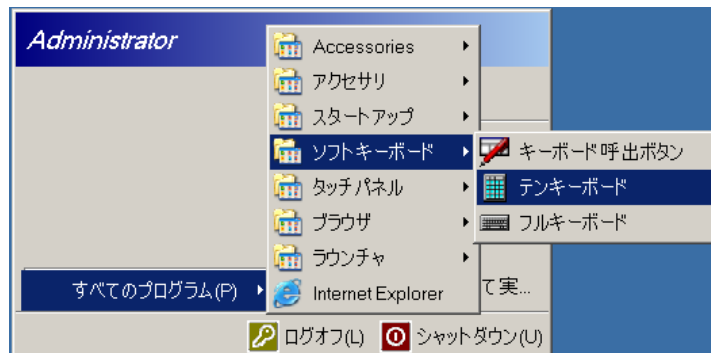
- ソフトキーボードの設定画面が表示されている場合、テンキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。
- キーマップはソフトキーボードで初めてキー入力が行われた際に変更されます。
- 106 キーボードは必ず直接入力状態で表示され、IME を ON にした時はローマ字入力モードになります。
- 座標位置を指定する場合、ソフトキーボードが画面内に収まらない場合、表示位置が画面内に収まるよう自動的に位置調整されます。

9-3 テンキーボード

9-3-1 テンキーボードの実行

テンキーボードは常駐型のアプリケーションです。テンキーボードを使用するにはあらかじめ起動しておく必要があります。

テンキーボードを起動する場合や、[スタート]－[すべてのプログラム]－[ソフトキーボード]－[テンキーボード]メニューから実行します。



テンキーボードのスタートメニューからの実行

9-3-2 テンキーボードの表示

テンキーボードが実行されると、タスクトレイ上にテンキーボードアイコンが表示されます。



タスクトレイ上のテンキーボードアイコン

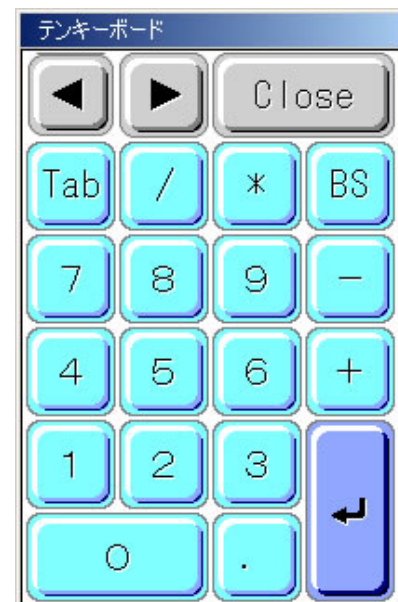
このアイコンをクリックすると、テンキーボードが表示されます。

9-3-3 テンキーボードの操作

テンキーボードでは、数字および記号の入力を行うことができます。




テンキーボードでは全角文字の入力は行わず、全て半角文字で入力されます。

キーボード上部のバーを押さえながらドラッグすると自由に移動することができます。



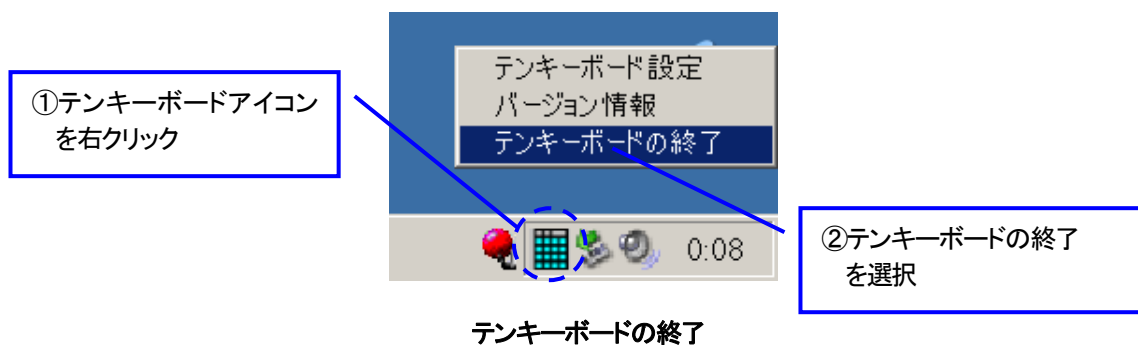
テンキーボード

各キーの機能

	テンキーボードの表示位置を画面左端に移動します。
	テンキーボードの表示位置を画面右端に移動します。
	キーボードが非表示になります。
	Tab コードを入力します。
	カーソルの左側の1文字が削除されます。(Back Space キー)
数字キー群	半角の数字・記号を入力します。
記号キー群	半角記号を入力します。

9-3-4 テンキーボードの終了

バックグラウンドで動作しているテンキーボードを終了する場合には、タスクトレイ上にあるテンキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「テンキーボードの終了」を選択します。



9-3-5 テンキーボードの設定

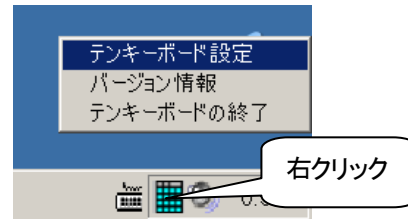
テンキーボードの初期状態はテンキーボード設定ツールを用いて変更することができます。

テンキーボード設定ツールは、コントロールパネルの「KTL テンキーボード設定」アイコンをダブルクリックするか、タスクトレイ上にあるソフトキーボードアイコンを右クリックし、表示されるメニューで「テンキーボード設定」を選択することで呼び出すことができます。

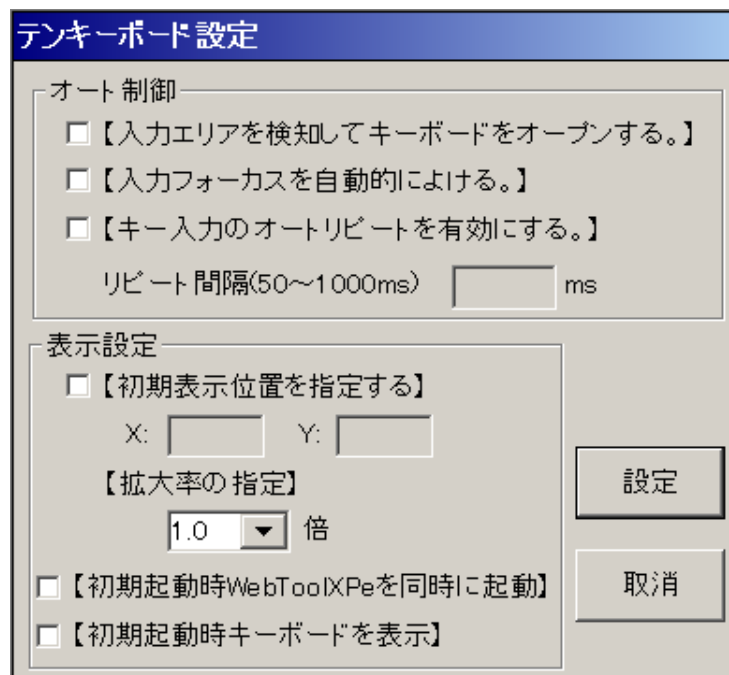


KTL テンキー
ボード設定

コントロールパネルの
KTL ソフトキーボード設定アイコン



テンキーボード設定



テンキーボード設定ツール

重要

- テンキーボードの変更を反映させるには設定終了後、テンキーボードの終了・再起動が必要です。
- テンキーボードの設定画面が表示されている場合、ソフトキーボードの設定は行えません。
- テンキーボードとソフトキーボードを同時に自動表示モードにすることはできません。

オート制御	
入力エリアを検知して キーボードをオープンする	<p>この項目を有効にすると、カレットを持つアプリケーションを起動またはアクティブにした場合に、自動的にソフトキーボードを表示します。</p> <p>また、カレットが表示された状態でテンキーボードを非表示にした場合、カレットを持つアプリケーションをクリックするとテンキーボードが再表示されます。</p>
入力フォーカスを 自動的によける	<p>この項目を有効にすると、入力カレットの表示位置とテンキーボードが重なった場合に、カレットが隠れない位置にテンキーボードを移動します。</p> <p>※ テンキーボードのサイズが大きいサイズの場合、入力フォーカスの位置がキーボードを移動しても隠れてしまい移動できない場合があります。(入力カレットが画面中央に表示されている場合)この場合は、一旦テンキーボードのサイズを小さくして、回避してください。</p>
キー入力のオートリピートを 有効にする	<p>この項目にチェックを入れると、テンキーボードのキー入力のオートリピート入力が可能となります。「リピート間隔」で設定した時間キーを押し続けると、文字が再入力されます。</p> <p>間隔は 50ms～1000ms の間で指定できます。</p>

表示設定	
初期表示の位置を指定する	<p>この項目を「有」に設定すると、テンキーボードを起動後初めて表示する座標をピクセル単位で指定することができます。デフォルトはX座標0、Y座標0(ピクセル)になっています。</p> <p>この項目を「無」に設定すると、テンキーボードの初回表示位置は、画面中央下部となります。設定はテンキーボード再起動後有効になります。</p>
拡大率の指定	<p>表示するテンキーボードの大きさの初期設定を指定します。</p> <p>デフォルトでは「1.0」倍サイズとなっています。</p>
初期起動時 WebToolXPe を 同時に起動	<p>この項目にチェックを入れると、テンキーボードの起動時に、WebToolXPe(キーボード呼出ボタン)も同時に起動します。</p>
初期起動時キーボードを 表示	<p>この項目にチェックを入れると、テンキーボードの起動時にキーボードを表示します。</p>

9-4 キーボード呼出ボタン

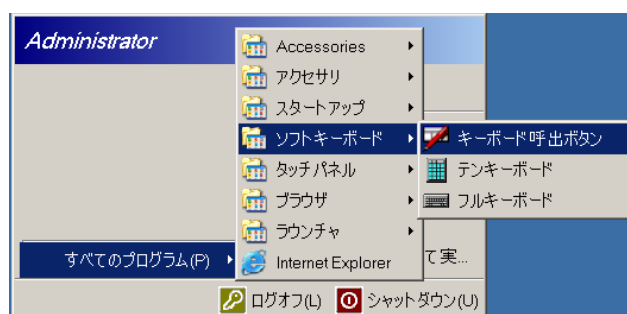
ソフトキーボードまたはテンキーボードを呼び出すためのボタンツールです。指定キーボードの表示/非表示をボタンの ON/OFF で制御することができます。すべてのウィンドウのトップに表示されるので、タスクバーを表示しない場合や、全画面表示のアプリケーションでソフトキーボードを呼び出すときなどに使用すると便利です。



キーボード
呼出ボタン

9-4-1 キーボード呼出ボタンの起動

「スタートメニュー」―「全てのプログラム」―「ソフトキーボード」―「キーボード呼出ボタン」を選択します。



スタートメニューからのキーボード呼出ボタンの起動

9-4-2 キーボード呼出ボタンでのソフトウェアキーボードの表示

キーボード呼出ボタン (WebToolXP.exe) にあるキーボードのイラストをクリックすることで指定キーボードの表示/非表示を切り替えることができます。

指定キーボードの表示状態とアイコン画像の関係

指定キーボード非表示	指定キーボード表示中

重要

- デフォルトでは表示する指定キーボードはソフトキーボードになっています。
- 各ソフトウェアキーボードの「入力終了」、「Close」ボタンをクリックすることでもソフトウェアキーボードを非表示にすることができます。
- 表示する指定キーボードが起動していない場合、キーボードボタンを押してもキーボードは表示されません。

9-4-3 キーボード呼出ボタンの終了

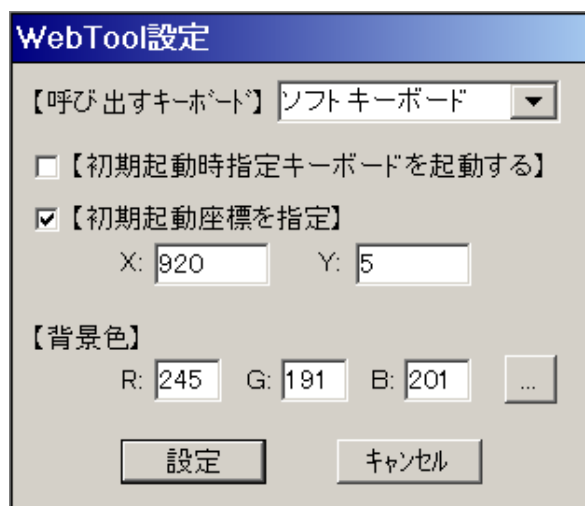
キーボード呼出ボタンを終了するには、キーボード呼出ボタンを右クリックして表示されるメニューで「WebToolXPe の終了」を選択します。



※ タッチパネルでの右クリックについては【4-2. イベントセレクタ】を参照してください。

9-4-4 キーボード呼出ボタンの設定

キーボード呼出ボタンの設定を変更するには「WebTool 設定」ツールを使用します。「WebTool 設定」ツールはコントロールパネルの「KTLWebTool 設定」アイコンか、キーボード呼出ボタンを右クリックして表示される「WebTool 設定」メニューから起動します。



WebTool 設定ツール

設定項目は以下のとおりです。

呼び出すキーボード	キーボード呼出ボタンをクリックした際に呼び出すキーボードを選択します。 「ソフトキーボード」と「テンキーボード」をどちらかを選択できます。 ※ 工場出荷時は「ソフトキーボード」になっています。
初期起動時指定キーボードを起動する	この項目にチェックを入れると、WebToolXPe の起動時(WebToolXPe.exe の実行時)に上記の「呼び出すキーボード」で指定したソフトウェアキーボード(ソフトキーボード or テンキーボード)を起動することができます。デフォルト設定では、この項目は無効となっています。
初期起動座標を指定	この項目にチェックを入れると、キーボード呼出ボタンを実行時に指定した座標に表示します。ここでの座標はキーボード呼出ボタンの左上角を表します。(画面外に表示されるような座標を指定しても、自動的に画面内に位置修正します。)
背景色	キーボード呼出ボタンの背景色を指定します。 [色] ボタンを押すとカラーパレットで色を指定することができます。



- 設定の変更を次回端末起動時に反映させるには、システムドライブプロテクトを OFF の状態で設定変更する必要があります。

9-5 設定ファイルの参照

ソフトキーボード、テンキーボードの設定は、設定ファイル keyconfig.ini に保存されます。

また、キーボード呼出ボタンの設定は、設定ファイル Webtool.ini に保存されます。

ソフトキーボード、テンキーボード、キーボード呼出ボタンの各アプリケーションは起動時に以下のような順序で設定ファイル検索し、最初に見つけた設定ファイルを読み込みます。

1. D ドライブのルート上の設定ファイル
2. E ドライブのルート上の設定ファイル
3. C:\Program Files\KTL\SOFTKB 上の設定ファイル（デフォルト）

また、各設定ツールで設定を変更した場合、現在アプリケーションに読み込まれている設定ファイルを変更します。（アプリケーションが起動していない場合はデフォルト設定ファイルが変更されます。）



- システムドライブプロテクトが ON の状態で C:\Program Files\KTL\SOFTKB 上の設定ファイルを変更しても次回端末起動時には反映されません。デフォルトの設定ファイルの変更を保存する場合にはシステムドライブプロテクトを OFF の状態で設定をしてください。

9-6 KTL ブラウザとの連携

9-6-1 「キーボード呼び出し」ボタンの取り込み

キーボード呼出ボタンは、KTL ブラウザの設定でソフトキーボードボタンを表示する設定になっている場合、KTL ブラウザが起動すると、KTL ブラウザのツールバーボタンとしてツールバー上に表示されます。



- KTL ブラウザ上でソフトウェアキーボードボタンを使用するには、キーボード呼出ボタン、使用するキーボードがあらかじめ実行されている必要があります。

9-6-2 <INPUT>タグを使用したコンテンツ上でソフトウェアキーボードの自動起動

ソフトキーボード/テンキーボードの設定で「入力エリアを検知してキーボードをオープンする」が有効な状態で、KTL ブラウザが<INPUT>で作成されて入力フィールドを持つコンテンツを表示している場合、その入力エリアをクリックすると自動起動モードになっているキーボードが表示されます。



- この機能は INPUT タグの属性が text, password である場合のみ対応しています。
- Flash コンテンツの入力フィールドや、INPUT (text, password 属性) タグで作成されていない入力エリアには対応しておりません。

<INPUT>タグを使用したコンテンツの例 : InputTagSample.html

```
<html>
<body>
Text 属性
  <input type=text onfocus=""><BR>
Password 属性
  <input type=password onfocus="" ><BR>
</body>
</html>
```

10 ブラウザ

本製品には Internet Explorer の他に、タッチパネルでの操作に適した「KTL ブラウザ」が組み込まれています。「KTL ブラウザ」はパソコンに不慣れなエンドユーザでも簡単にインターネットを楽しめる、簡単操作のブラウザです。また、全画面表示や自動スタートページジャンプなどキオスク端末として使用するのに便利な機能が数多く用意されています。



- ホームページの閲覧に使用するブラウザはエンドユーザの個人情報を記録しています。特に不特定多数のエンドユーザが1台の端末を利用する環境では、次のような問題の発生が予想されますので、個人情報の管理に関する対策を盛り込んだシステム運用を行ってください。
 - ◆ 閲覧履歴を第三者に見られることによるプライバシーの侵害。
 - ◆ 登録した ID やパスワードを第三者に盗まれ、悪用される恐れ。
- コンピュータウイルスに対しても十分な予防策を講じたシステム運用を行ってください。
- 本マニュアルリリース時点での KTL ブラウザの最新バージョンは以下のようになっています。

◆ KTL ブラウザ(ブラウザ本体)	Version 1.20
◆ KTL ブラウザ設定	Version 1.20
- 本マニュアルには上記バージョンからご利用になれる機能についても記載されています。本マニュアル参照の際には、ご利用になる KTL ブラウザのバージョンを確認の上ご利用ください。

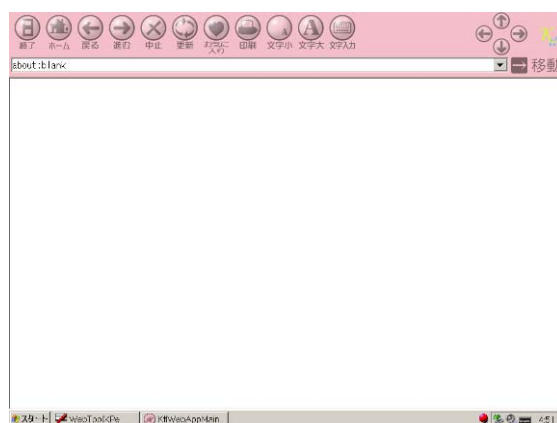
10-1 KTL ブラウザの起動

1. 「スタート」-「すべてのプログラム」-「ブラウザ」と順に選択し、最後に「KTL ブラウザ」を選択します。



スタートメニューからの起動

2. 「KTL ブラウザ」画面が表示されます。



KTL ブラウザの初期画面



- 最初のスタートページは「about:blank」になっています。実際のインターネットの閲覧はアドレスバーに具体的な URL を入力するか、「KTL ブラウザ設定」でスタートページを変更してください。

10-2 KTL ブラウザの画面構成

KTL ブラウザはメインブラウザとサブブラウザの画面があります。サブブラウザはメインブラウザから呼び出される2つ目以降の画面です。

メインブラウザは、「ツールバー」、「アドレスバー」、「ビューエリア」によって構成されています。



KTL ブラウザ:メインブラウザの画面

サブブラウザは「ツールバー」と「ビューエリア」から構成されます。



KTL ブラウザ: サブブラウザの画面

10-2-1 ツールバー

主にブラウザを操作するための「ボタン」、「十字キー」、「ロゴマーク」を表示します。



「終了」ボタンです。メインブラウザでのみ表示されます。
「KTL ブラウザ」を終了します。



「ホーム」ボタンです。
KTL ブラウザ設定の「ホームページ」に登録されている URL を表示します。
サブブラウザ上のホームボタンを押すと、表示されている全てのサブブラウザが閉じられ、メインブラウザ上で「ホームページ」に登録した URL を表示します。



「戻る」ボタンです。
直前に表示したページに戻ります。



「進む」ボタンです。
「戻る」ボタンをクリックする前に表示したページを再度表示します。



「中止」ボタンです。
ページの読み込み・表示を停止します。



「更新」ボタンです。
現在表示されているページを更新します。



「お気に入り」ボタンです。よく利用するページの登録・呼び出しができます。
お気に入り機能については【10-7. 「お気に入り」の利用】で詳しく説明しています。



「印刷」ボタンです。
表示中のページをプリンタに出力します。



「文字小」ボタンです。表示中のページの文字を小さくします。
ページによっては文字の大きさが変化しないものもあります。



「文字大」ボタンです。表示中のページの文字を大きくします。
ページによっては文字の大きさが変化しないものもあります。



「文字入力」ボタンです。ソフトウェアキーボードを呼び出します。
本ボタンは「キーボード呼び出しボタン」ツールと連動しており、本ボタンを使用するには「キーボード呼び出しボタン」ツールが起動中である必要があります。

「キーボード呼び出しボタン」ツールについては【9-4 キーボード呼出ボタン】を参照してください。



「外部アプリケーション」ボタンです。登録された外部アプリケーションを呼び出します。



外部アプリケーションの登録方法については【10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定】で詳しく説明しています。



「閉じる」ボタンです。サブブラウザでのみ使用します。
現在表示中のサブブラウザ画面を閉じます。



「十字キー」ボタンです。
矢印を押すとその方向に画面に表示中のコンテンツがスクロールします。



ロゴマークです。
リンク先に接続中はアニメーションを再生します。

10-2-2 アドレスバー

「アドレスバー」と「移動」ボタンを表示します。現在表示中のコンテンツのアドレス(URL)の表示や、移動先のアドレスを指定するのに使用します。



「アドレスバー」はページのアドレスの表示・入力を行います。

右側の▼ボタンをクリックすると、入力したアドレス(URL)の履歴が表示されます。



「移動」ボタンです。

アドレスバーに入力したアドレスに移動し、ページの表示を行います。

10-2-3 ビューエリア

現在アクセス中のページを表示するエリアです。

ビューエリアを全画面で表示する事もできます。(コンテンツを全画面で表示できます。)

10-3 KTL ブラウザの終了

「KTL ブラウザ」は通常、「終了」ボタンを押すと終了しますが、「終了」ボタンを非表示にしている場合や、全画面表示している場合などは以下の方法で終了することができます。

1. KTL ブラウザの画面(ツールバー、アドレスバー、ビューエリア)を右クリックします。
2. 表示されるポップアップメニューで「ブラウザ終了」を選択します。



右クリックするとメニューが表示される。

右クリックによる KTL ブラウザの終了

10-4 ブラウザのバージョンの確認

「KTL ブラウザ」のバージョンは以下の方法で確認することができます。

1. KTL ブラウザの画面(ツールバー、アドレスバー、ビューエリア)を右クリックします。
2. 表示されるポップアップメニューで「バージョン情報」を選択します。
3. 「バージョン情報」ダイアログが表示されます。



KTL ブラウザのバージョンの確認

10-5 ページの閲覧

ページの指定は次のいずれかの方法で行います。

- ビュー画面に表示されているページのリンクをクリックする
- 「アドレスバー」に目的のページのアドレス(URL)を入力し、「表示」ボタンをクリックする
- 「お気に入り」に登録したページのリストから目的のページを選択し、ダブルクリックする

10-6 KTL ブラウザ上の文字の入力

アドレスの入力やその他の文字入力はソフトウェアキーボードと外付けキーボードのいずれから行うことができます。

ソフトウェアキーボードが自動起動設定になっている場合は、コンテンツ内にある<INPUT>タグ(text, password 属性)で作成されている入力エリアをクリックするとソフトウェアキーボードが表示されます。(【9-6 KTL ブラウザとの連携】参照)

また、ツールバー上にある「文字入力」ボタンを押してもソフトキーボードが表示されます。



- 「文字入力」ボタンは、ソフトウェアキーボードの「キーボード呼び出しボタン」と同一であるため、呼び出すキーボードなどの設定は WebTool 設定ツールで行います。(【9-4-4. キーボード呼出ボタンの設定】参照)

10-7 「お気に入り」の利用

よく利用するページを、「お気に入り」ボタンで表示される「お気に入り一覧」に登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。

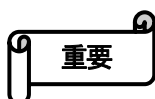
お気に入り一覧

10-7-1 お気に入りの登録

- 登録したいページを表示します。
- 「お気に入り」ボタンを押します。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
- 「お気に入り一覧」ウィンドウにある「新規登録」ボタンをクリックします。「お気に入り編集」ウィンドウが表示されます。

お気に入り編集

- 登録名を名前欄に入力します。名前欄には現在表示中のコンテンツの名前(タイトル)が表示されているので、変更する場合は新しい名前を入力します。ここで入力された名前が「お気に入り一覧」に表示されます。
- アドレスを入力します。「アドレス」部分には現在表示中のアドレス(URL)が表示されています。通常は変更の必要はありません。この部分に別のアドレス(URL)を入力することで、表示中のものとは別のアドレスを登録することもできます。
- 「登録」ボタンを押して「お気に入り一覧」にページを登録します。
変更した内容を反映させずに編集画面を閉じたいときには、「キャンセル」ボタンを押します。
- 「閉じる」ボタンをクリックして、「お気に入り一覧」を閉じます。



- Windows 禁止文字（半角文字「¥」・「/」・「:」・「?」・「"」・「<」・「>」・「|」）を使用した名前の登録はできません。

10-7-2 お気に入りの変更

- 「お気に入り」ボタンを押します。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
- 「お気に入り一覧」の中から変更したい項目の名前をクリックして選択します。
- 「変更/削除」ボタンをクリックします。
- 「お気に入り編集」に表示されている情報を変更します。
- 「登録」ボタンを押します。
変更した内容を反映させずに編集画面を閉じたいときには、「キャンセル」ボタンをクリックします。
- 「閉じる」ボタンをクリックして、「お気に入り一覧」を閉じます。

10-7-3 お気に入りの削除

- 「お気に入り」ボタンを押します。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
- 「お気に入り一覧」の中から削除したい項目の名前をクリックして選択します。
- 「変更/削除」ボタンをクリックします。
- 「お気に入り編集」に表示されている情報が、削除したい項目のものか確認します。間違えて別の項目を選択していた場合は「キャンセル」ボタンをクリックし再度削除したい項目を選択します。
- 「削除」ボタンをクリックします。「お気に入り一覧」の中から選択した項目が削除されます。
- 「閉じる」ボタンをクリックして、「お気に入り一覧」を閉じます。

10-7-4 お気に入りの呼び出し

- 「お気に入り」ボタンを押します。「お気に入り一覧」ウィンドウが表示されます。
- 「お気に入り一覧」の中から、目的の名前を選択します。
- 「お気に入り一覧」で「表示」ボタンを押します。目的のページがブラウザに表示されます。



- 使用者に「お気に入り」を編集させたくない場合、「KTL ブラウザ設定」の「お気に入り編集」設定を無効にすることにより、「新規登録」、「変更／削除」ボタンを非表示にすることができ
ます。（【10-8-2 全体の設定 [表示機能設定]】を参照）

10-7-5 お気に入り情報の参照

お気に入り一覧の情報は次の順序で保存先を自動的に決定されます。

- D:¥
- E:¥
- C:¥Program Files¥KTL¥KTLWEB¥

保存先が決定するとKTLブラウザはそこにFavorites という名前のフォルダを作成し、お気に入り情報を保存します。



- Cドライブにお気に入り情報を保存する場合は、システムドライブプロテクトを OFF の状態で登録してください。
- 「お気に入り情報」の変更を継続的に利用する場合は、拡張ドライブのご用意が必要です。

10-8 KTL ブラウザの設定

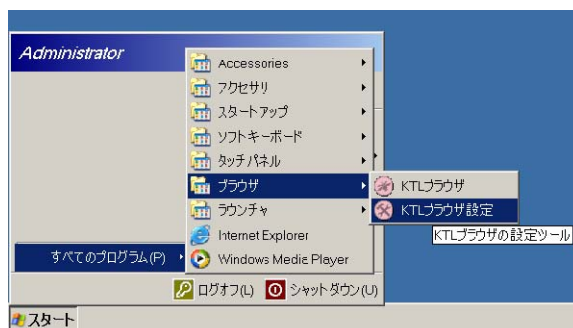
KTL ブラウザの設定は「KTL ブラウザ設定」から行います。

10-8-1 KTL ブラウザ設定の起動

KTL ブラウザ設定は「スタートメニュー」-「すべてのプログラム」-「ブラウザ」-「KTL ブラウザ設定」を実行するか、コントロールパネル内の「KTL ブラウザ設定」から起動することができます。また、ブラウザを右クリックして表示されるメニューからも選択できます。

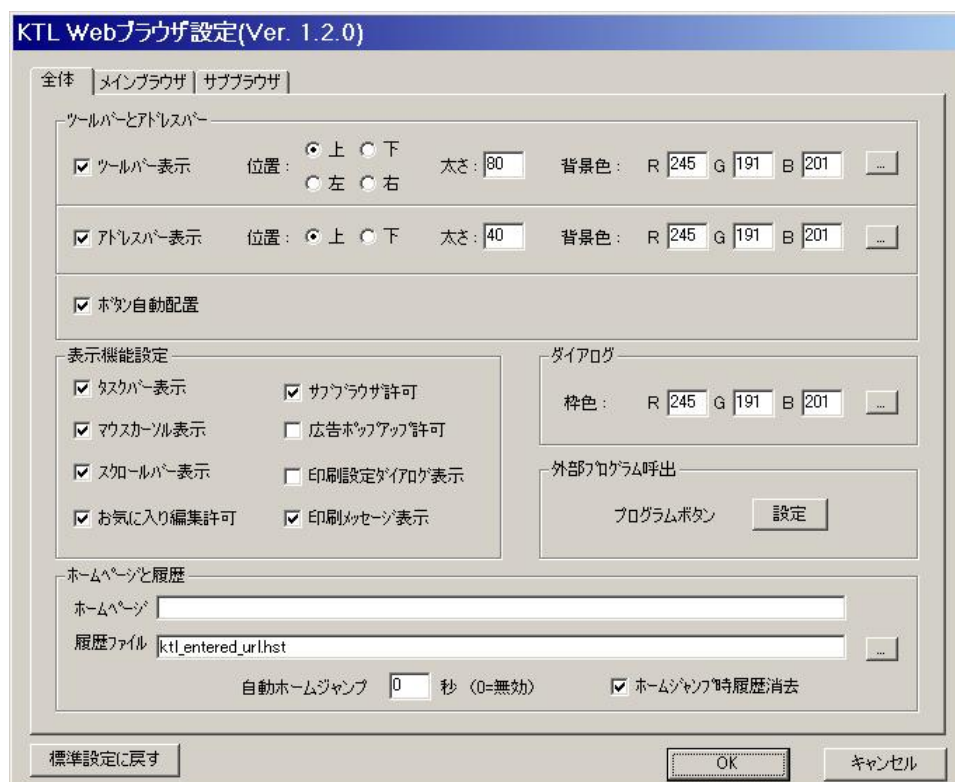


コントロールパネルの
KTLWeb ブラウザ設定アイコン



スタートメニュー: KTLWeb ブラウザ設定

10-8-2 全体の設定



KTL ブラウザ設定:全体

ツールバーとアドレスバー

ツールバー表示 ツールバーの表示/非表示を設定します。

位置 「上下左右」のいずれか一つの方向にツールバーの表示位置を指定する事ができます。



ツールバー:上



ツールバー:下



ツールバー:左



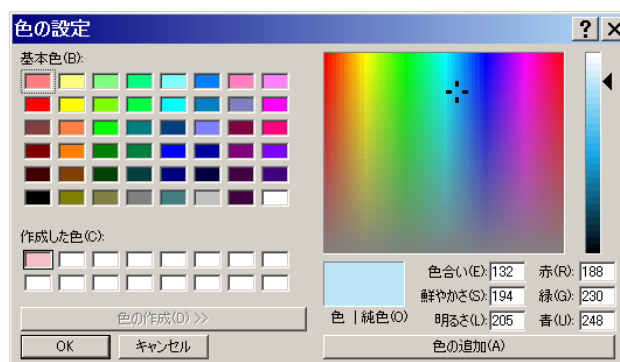
ツールバー:右

太さ

ツールバーの太さ(幅)を Pixel 単位で指定する事ができます。

背景色

ツールバーの背景色を指定することが出来ます。[色] ボタンを押せばカラーパレットを使用して色を指定することができます。



カラーパレット

アドレスバー表示

アドレスバーの表示/非表示を設定します。

位置

「上下」のいずれか 1 つの方向にアドレスバーの表示位置を指定する事ができます。




アドレスバー:上



アドレスバー:下

太さ

アドレスバーの太さを指定する事ができます。

背景色 アドレスバーの背景色を指定することが出来ます。  ボタンを押すとカラーパレットを使用して色を指定することができます。

ボタン自動配置 各バーに表示するボタン及びコントロールを自動的に配置します。チェックを外せば、「アドレスバー」、「ツールバー」上のボタン等の各コントロールを任意に配置することができます。

※ KTL ブラウザ（ Version 1.16 ） および KTL ブラウザ設定（ Version 1.02 ） 以前のバージョンではボタン自動配置機能を無効にすることはできません。

表示機能設定

タスクバー表示 Windows タスクバーを表示する場合にチェックを付けます。

マウスカーソル表示 画面上にマウスカーソルを表示にしたい場合はチェックを付けます。表示させない場合はチェックをはずします。

スクロールバー表示 画面上にスクロールバーを表示にしたい場合はチェックを付けます。表示させない場合はチェックをはずします。

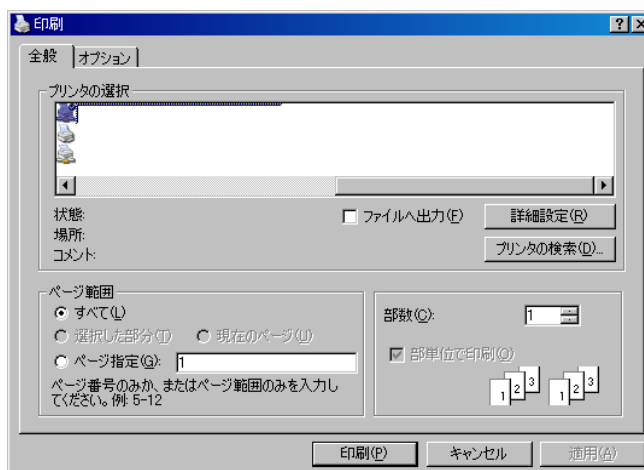
お気に入り編集許可 「お気に入り一覧」画面に「新規登録」・「変更/削除」ボタンを表示し、お気に入り情報の編集を可能にします。

サブブラウザ許可 サブブラウザ許可を設定した場合、コンテンツ上のリンクが別ウィンドウを起動するように指定している場合に、メインブラウザ上でリンク先のコンテンツを表示し、サブブラウザも表示します。

広告ポップアップ許可 広告ポップアップの表示を許可します。

サブブラウザはリンクをクリックするなどのユーザの操作によって新しいウィンドウが開きますが、この設定を有効にするとコンテンツ内から自動的に呼ばれるポップアップウィンドウの表示を許可します。

印刷設定ダイアログ表示 印刷前にプリンタのセットアップ画面を表示します。

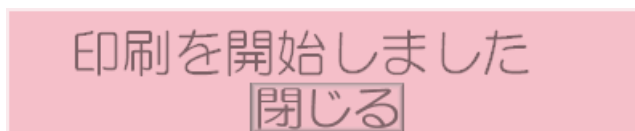


印刷ダイアログ

※ この設定が有効な場合、印刷メッセージ表示設定が有効であっても、印刷メッセージは表示されません。

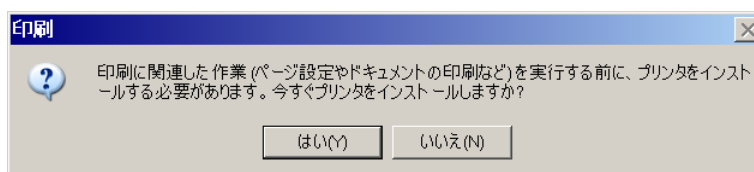
印刷メッセージ表示

印刷時のステータス情報を画面に表示します。



印刷メッセージ

- ※ プリンタドライバからステータス情報を取得できない場合、エラーメッセージ等は表示されません。
- ※ プリンタのセットアップが行なわれていない場合、印刷を行うと以下のようなメッセージが表示されます。この際表示されるプリンタセットアップ画面で設定を行い、印刷を再度実行してください。



ダイアログ

枠色

ブラウザから起動されるお気に入り設定や印刷ダイアログなどの枠の色を RGB カラーで指定します。カラーパレットを使用しても色を指定することができます。

外部プログラム呼出

プログラムボタン 「KTL ブラウザ」の外部ボタン 1～5 で呼び出す外部アプリケーションを登録します。

詳細は【10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定】をご覧ください。

ホームページと履歴

ホームページ 「KTL ブラウザ」を起動したとき、最初に表示されるページのアドレス(URL)を指定します。

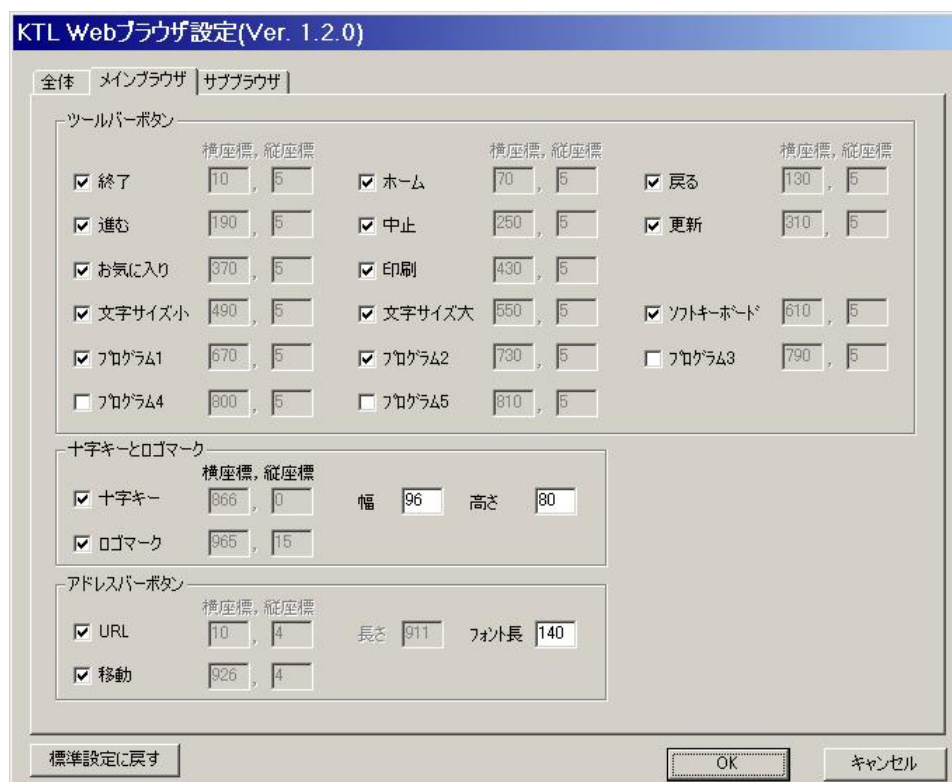
履歴ファイル URL 履歴一覧の情報を保存するファイル(テキスト形式、拡張子 hst)を指定します。

※ エンドユーザが「履歴」機能を継続的に利用するには、URL 履歴一覧ファイルの保存場所を拡張ドライブに設定する必要があります。

自動ホームジャンプ 「KTL ブラウザ」を操作しない状態が一定時間以上続くと、自動的に“ホームページ”に登録したページに移動します。
自動ホームジャンプが実行されると、開いているサブブラウザはすべて閉じられます。
また、戻るまでの時間は 1 秒単位で設定し、無効にする場合は 0 を指定します。

ホームジャンプ時履歴消去 「ホーム」ボタンが押されたとき、履歴情報を削除します。履歴情報を削除する場合はチェックを付けます。
ここで言う履歴情報は、現在表示中の画面遷移履歴を削除することであり、「履歴ファイル名」設定で指定した履歴ファイル情報を削除するものではありません。

10-8-3 メインブラウザの設定



KTL ブラウザ設定:メインブラウザ

ツールバーボタン

ツールバーに表示可能な各ボタンについて表示/非表示を設定します。表示する場合はチェックを付けます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」でロゴマークの表示位置を指定します。

ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

十字キーとロゴマーク

十字キー

十字キーの表示/非表示を設定します。表示する場合はチェックを付けます。

「幅」、「高さ」では十字キーの幅と高さを Pixel 単位で指定できます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」で十字キーの表示位置を指定します。ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

ロゴマーク

ロゴマークの表示/非表示を設定します。表示する場合はチェックを付けます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」でロゴマークの表示位置を指定します。ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。



- KTL ブラウザ（Version 1.16）および KTL ブラウザ設定（Version 1.02）から以前のバージョンの KTL ブラウザでは「ボタン自動配置」機能を無効にすることはできません。



- 「ボタン自動配置」設定が有効な場合、十字キーの「幅」に対する「高さ」の比が「0.73」以下の値を設定することはできません。この場合、「幅」:「高さ」の比が「0.73」の大きさの十字キーが表示されます。（例: 幅 96, 高さ 40 → 幅 96 高さ 67 の十字キーを表示）

アドレスバーボタン

URL

アドレスバーに URL を入力するためのテキストボックスを表示します。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」でテキストボックスの表示位置を指定します。ここではアドレスバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

「長さ」ではこのテキストボックスの長さを変更することができます。

「フォント長」ではこのテキストボックスに表示する文字のフォントサイズを変更することができます。このとき、このテキストボックスの高さも同時に大きくなります。

移動

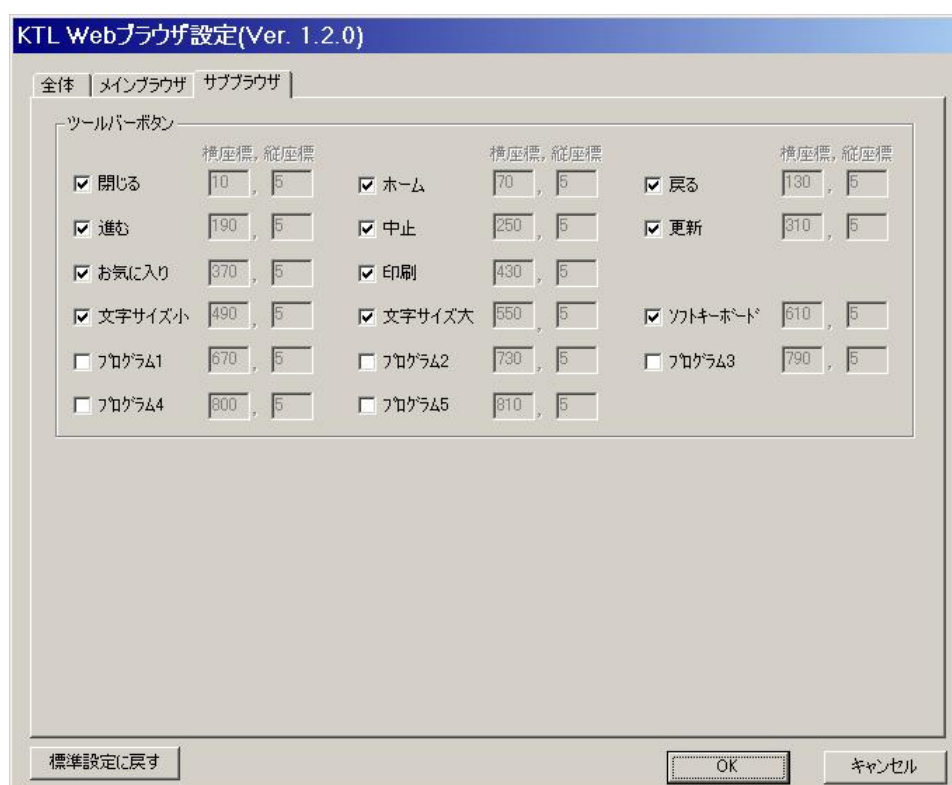
アドレスバーに「移動」ボタンを表示します。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は「横座標」、「縦座標」で移動ボタンの表示位置を指定します。ここではアドレスバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。



- KTL ブラウザ（Version 1.16）および KTL ブラウザ設定（Version 1.02）以前のバージョンの KTL ブラウザでは「ボタン自動配置」機能を無効にすることはできません。
また、「フォント長」変更機能に関しては対応しておりません。

10-8-4 サブブラウザの設定



KTL ブラウザ設定:サブブラウザ

ツールバーボタン

各操作ボタンの表示/非表示を設定します。表示させたいときはチェックを付けます。

「ボタン自動配置」設定が無効な場合は、「横座標」「縦座標」欄でボタンの表示位置を指定します。

ここではツールバー左上を基準にした Pixel 単位の座標値を入力します。

これらの設定はメインブラウザでの設定とは独立に行うことができます。



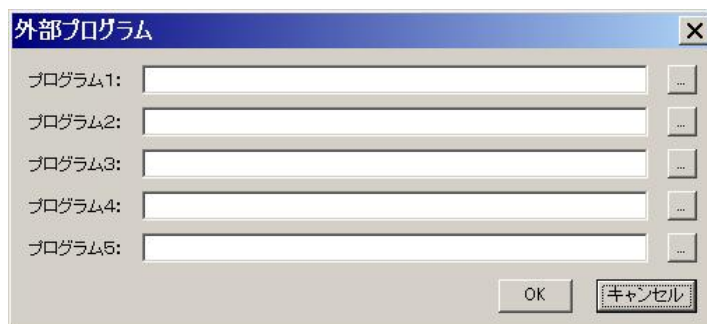
- ツールバーの設定はメインブラウザでの設定に従います。
- ログマーク、十字キーの設定はメインブラウザでの設定に従います。
- サブブラウザではアドレスバーの設定はできません。

10-8-5 外部プログラム呼び出しボタンの設定


ブラウザから別のアプリケーションを呼び出したい場合、プログラムボタン 1～5 にそのアプリケーションを登録することができます。

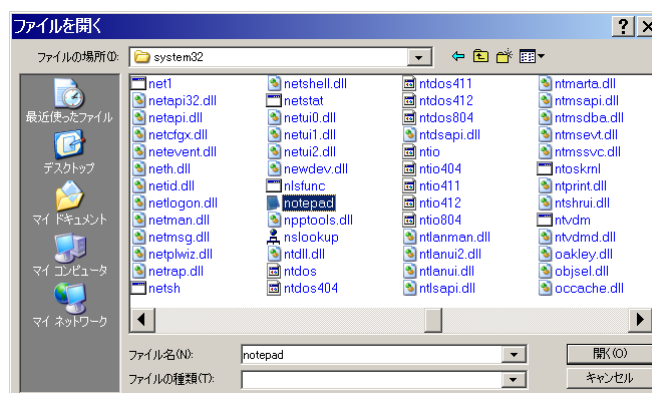
外部プログラムを登録する

1. 「KTL ブラウザ設定」を起動し、プログラムボタンの「設定」ボタンを押し、「外部プログラム」画面を表示します。



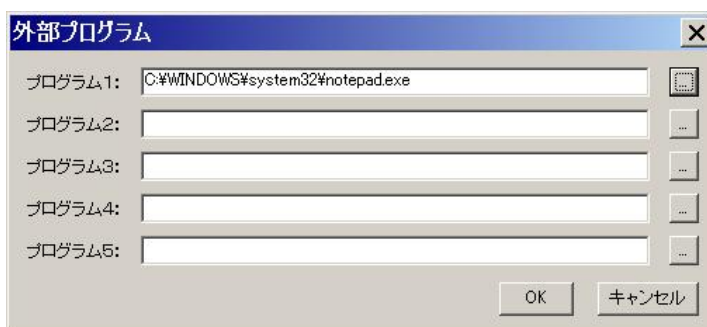
外部プログラムダイアログ

2.  ボタンを押し「ファイルを開く」画面を起動します。ここで呼び出すプログラムを選択し、「開く」ボタンを押します。(この例では Notepad が選択されています。)



ファイルを開く

3. 選択したプログラムのへの絶対パスが表示されていることを確認し、「追加」ボタンを押します。

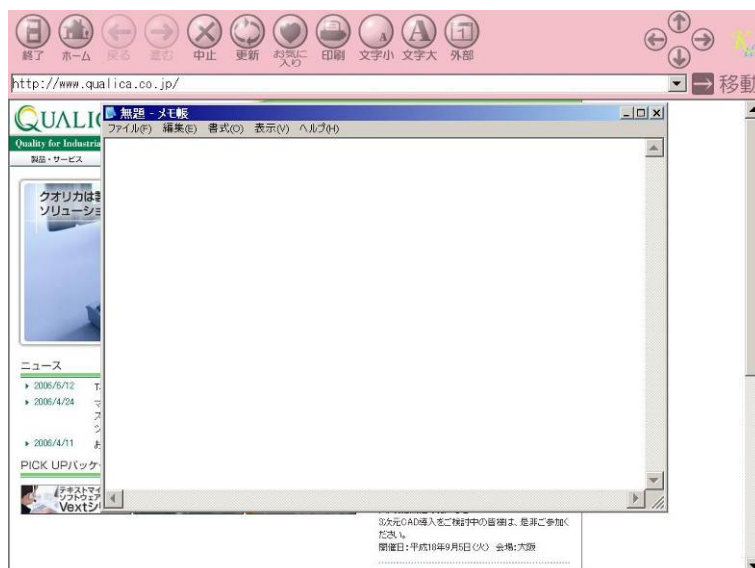


外部プログラム:Notepad の追加



- リストに追加できるプログラムは最大5つまでです。
- 「プログラム 1～5」ボタンに登録するアプリケーションの順序は、外部プログラム画面に表示されているリスト順に従います。
- 「ファイルを開く」画面を使用しなくても、直接実行ファイルの絶対パスを入力することもできます。

4. ツールバーに「外部1」ボタンを表示している状態で「外部1」ボタンを押すと、登録した Notepad が呼び出されます。



外部アプリケーションボタン:Notepad の呼び出し

5. 外部プログラムボタンの割付を変更する場合には、【外部プログラムを登録する】1 より設定し直してください。

外部プログラムの削除

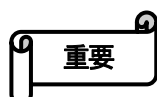
1. 削除するプログラムをリスト上から削除します。
2. 「OK」ボタンを押します。

10-8-6 設定ファイルの参照

KTL ブラウザの設定は、設定ファイル ktl_web_app.ini に保存されます。

KTL ブラウザは起動時に以下のような順序で設定ファイル検索し、最初に見つけた設定ファイルを読み込みます。

1. コマンドライン引数で指定された設定ファイル
2. D:¥ktl_web_app.ini
3. E:¥ktl_web_app.ini
4. C:¥Program Files¥KTL¥KTLWEB¥ ktl_web_app.ini (デフォルト)



- KTL ブラウザ設定ツールで変更した設定値は必ず C:¥Program Files¥KTL¥KTLWEB¥ ktl_web_app.ini に保存されます。
- システムドライブプロテクトが ON の状態で KTL ブラウザの設定を変更しても、次回端末起動時には反映されません。設定ツールで変更した設定ファイルを D または E ドライブにコピーするか、システムドライブプロテクトを OFF の状態で設定を変更してください。

10-9 コマンドラインからの実行

本ブラウザはコマンドラインから起動される場合、次のコマンドオプション(引数)をサポートしています。

- I 設定ファイルのパスを指定します。
(この引数識別子は必ず大文字で記述してください。)
- S 起動時に表示するページ(ホームページ)の URL を指定します。
(この引数識別子は必ず大文字で記述してください。)

例) “C:¥Program Files¥KTL¥KTLWeb¥KtlWebApp.exe” -I C:¥data.ini -S http://www.qualica.co.jp



- 端末起動時に KTL ブラウザを自動起動する場合の方法は【8. アプリケーションの自動起動】をご参照ください。

10-10 サポートしているブラウザ機能

「KTL ブラウザ」は Internet Explorer をベースに開発されています。本製品にインストールされている Internet Explorer は最小構成版のため、一部サポートされていない機能があります。

サポートしている機能は以下のとおりです。

- The Internet Explorer DHTML プラットフォーム
- Full CSS Level 1 サポート
- Full DCOM Level 1 サポート
- Microsoft XML (MSXML) 3.0
- HTML4.0
- Jscript(JavaScript 互換)
- Visual Basic Script
- Microsoft Shockwave Flash

10-11 使用上の制限事項



- コンテンツ内にスクリプトエラーがあっても、エラーメッセージは表示されません。
- JavaScript の window.open を使用して同じウィンドウクラス名で連続的にウィンドウを開くようなコンテンツには対応しておりません。
- 本ブラウザはウィンドウのサイズを変更できません。

11 ラウンチャ

アプリケーションを簡単に起動するためのツールです。

例えば、Windows のデスクトップ画面を表示せず、指定のアプリケーションのみを起動・運用したい場合や、必要なアプリケーションを起動するためのボタンを常時画面上に表示しておきたい場合などに使用します。

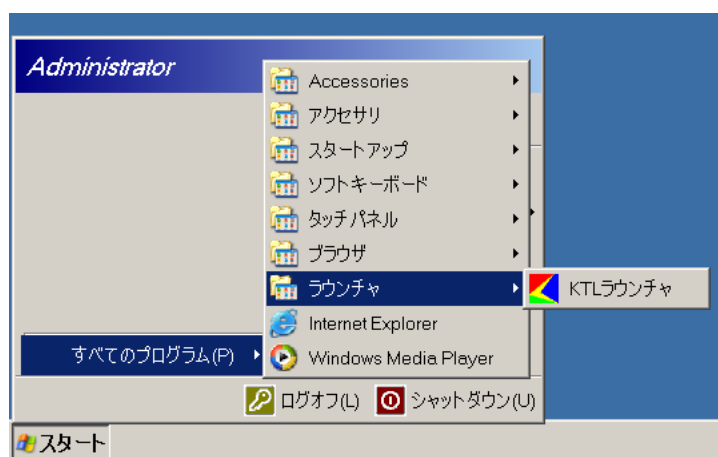
本端末に組み込まれている“KTL ラウンチャ”は、背景・ボタンのレイアウト、ボタンへの起動アプリケーションの割付など、設定ファイルで指定できるため、ご利用の目的に合った自由なデザインでラウンチャの画面を構成できます。

11-1 基本的な使用方法

本端末には設定ファイル・イメージファイルのサンプルが既に組み込まれています。これを例に基本的な使用方法を説明します。

11-1-1 起動

[スタート]メニューの[すべてのプログラム]で[ラウンチャ]→[KTL ラウンチャ]を選択すると、KTL ラウンチャがサンプルデザインで起動します。

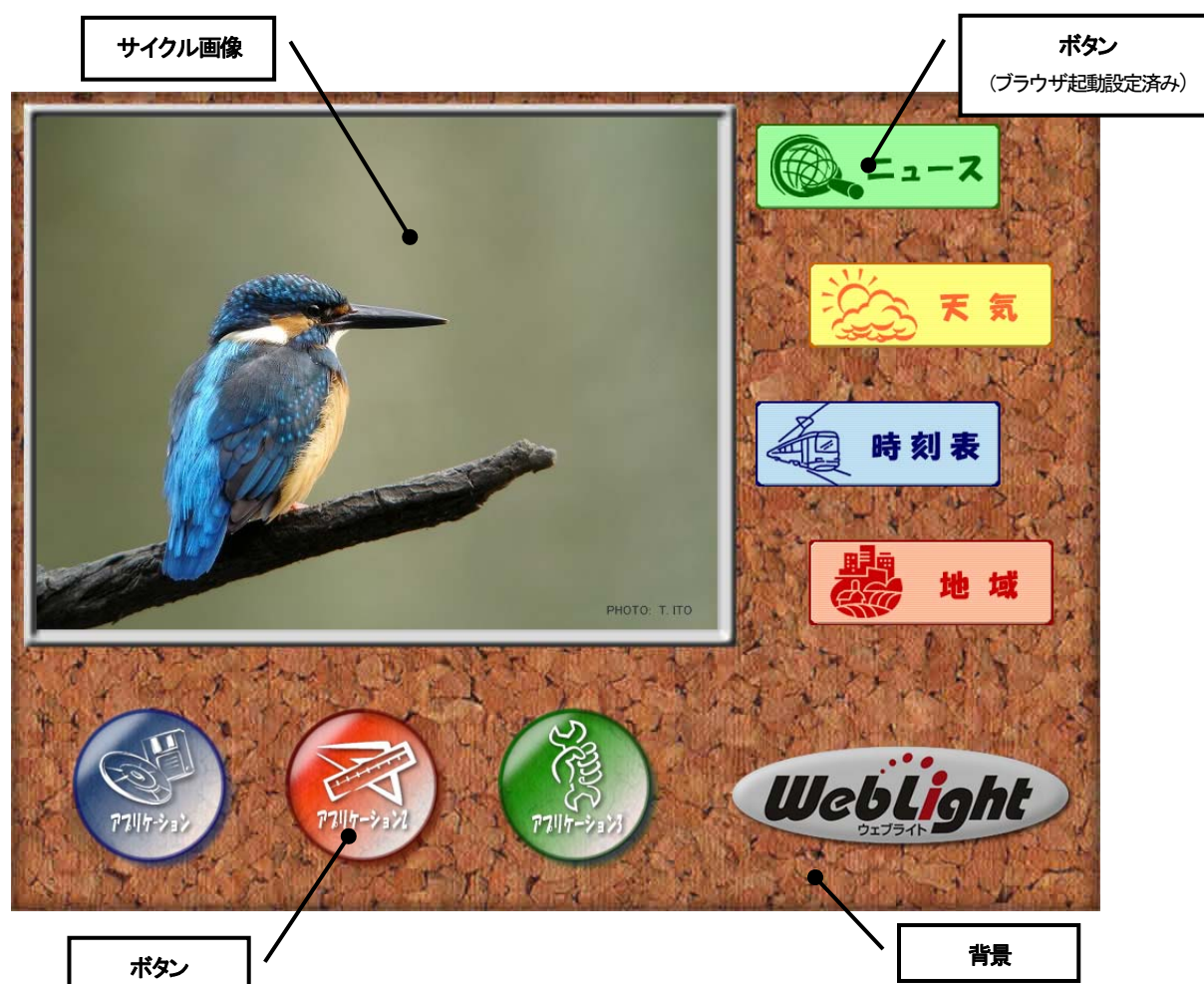


スタートメニューからのラウンチャの起動

11-1-2 画面の説明

サンプルデザインは以下のような構成になっています。

- 全画面にウィンドウ・背景を表示
- 起動アプリケーションが割り付けられていないボタンが3つ、アプリケーション(KTL ブラウザ)の起動を行うボタンを4つ配置
- 一定時間(30 秒)で切り替わるサイクル画像を配置



KTL ラウンチャのデフォルトサンプル

11-1-3 ボタンを押す

画面下側に配置されている3つのボタン、「アプリケーション」「アプリケーション2」「アプリケーション3」ボタンを押すとボタンの画像が変化することが確認できます。

※ 初期状態ではこれらのボタンには起動アプリケーションが設定されていないため、何も起動しません。



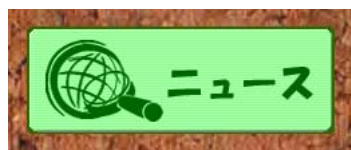
ボタン(通常)



ボタン(押下時)

11-1-4 ボタンからのアプリケーションの起動

本端末をインターネットに接続した状態で KTL ラウンチャを起動し、画面右側に配置されている4つのボタンを押してください。KTL ブラウザが起動し、各ボタンに関連したホームページが閲覧できます。ブラウザを終了すると、ラウンチャ画面に戻ります。



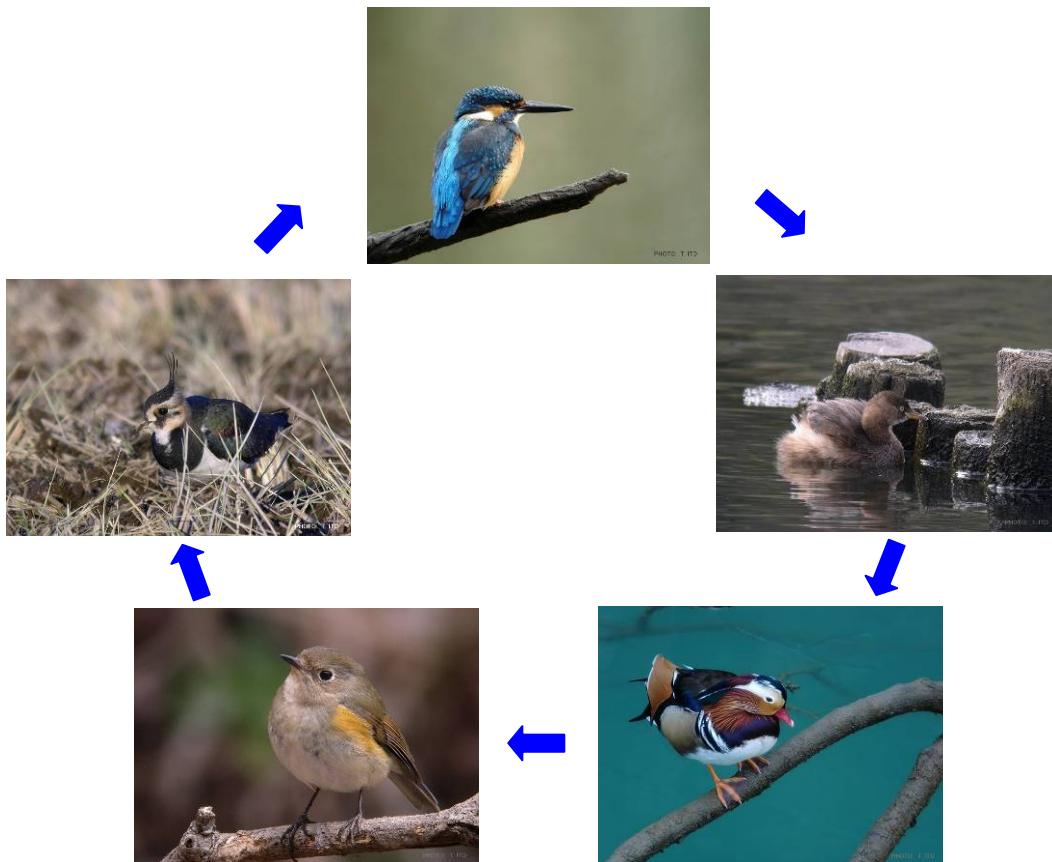
ボタン:ニュース



KTL ブラウザの起動

11-1-5 サイクル画像

サンプルデザインの左上にはサイクル画像が配置されています。約 30 秒間隔で 5 種類の写真イメージを繰り返し表示します。



サイクルイメージ

11-1-6 終了



11-2 KTL ラウンチャの設定

11-2-1 使用できる画像形式

KTL ラウンチャで表示できる画像は、ビットマップ画像(*.bmp)、JPEG 画像(*.jpg)、GIF 画像(*.gif)、PNG 画像(*.png)の4種類です。それぞれ以下の表に示したような特徴があります。状況に合わせてお使いください。

画像	特徴	透過	使用例
BMP	Windows の標準的な画像形式。無圧縮なため劣化はないが、ファイル容量が大きい。	×	ロゴ等
GIF	主に Web ページのボタンなどに用いられている。色数が限定されるが、容量が小さい	×	ボタン、イラスト
JPEG	デジカメ写真などで標準的な画像形式。 色数も多く、ファイルも小さくできるが、圧縮により画像の劣化が起こる場合がある。	×	背景、写真
PNG	GIF に似ているが、色数・機能とも非常に高く、透過処理などさまざまな効果を持ったイメージを作成・表示できる。	○	ボタン、ロゴ

11-2-2 設定ファイル

KTL ラウンチャの各種設定と画面のデザインは CSV 形式の設定ファイルで記述します。

設定項目として、“メニュー”、“タイトル”、“トップ表示”、“終了スイッチ”、“ウィンドウ座標”、“背景”、“ボタン”、“サイクル”、“サウンド”があります。

ラウンチャ設定 CSV ファイル例: OneButtonSample.csv

#表示設定, ON/OFF

メニュー, ON,

タイトル, Sample,

トップ 表示, ON,

ウィンドウ座標, 10, 10, 160, 190

背景, 0, 0, 160, 160, .¥res¥WBall_B.png

ボタン, 0, 0, 160, 160, .¥res¥アプリケーション 160x160_on.png, .¥res¥アプリケーション 160x160.png, www.msn.co.jp, , ,



OneButtonSample の実行例



- カタカナ、数字、記号はすべて半角文字で記述してください。
- 行の先頭にコメントアウト記号の '#' をつけるとその行は読み込み時に無視されます。
- 空白行は無視されます。

メニュー メニュー(ウィンドウ)バーの表示/非表示を設定します。
ただし、ウィンドウ設定で全画面表示を指定している場合、ウィンドウバーは非表示になります。

【書式】 メニュー, [ON/OFF],

メニューバーが表示されている場合は終了バーボタンでラウンチャを終了してください。

表示されていない場合は、【11-1-6 終了】で説明している方法で終了します。

タイトル バーに表示するタイトル名を設定します。
メニュー設定が OFF の場合は無視されます。

【書式】 タイトル, [タイトル文字列],



トップ表示 他のウィンドウの上に常時表示するかどうかを設定します。
ただし、ウィンドウ座標の設定で全画面表示を指定している場合、トップ表示はできません。
(強制的に OFF になります。)

【書式】 トップ表示, [ON/OFF],

終了スイッチ メニューバー表示されていない設定時に「10-1-6 終了」のコマンドを受け付けるかどうかを設定します。

ウィンドウ表示が全画面で無いときは無視されます。

【書式】 終了スイッチ [ON/OFF],

ウィンドウ座標 ラウンチャのウィンドウの表示位置とサイズを設定します。各値は Pixel 単位で指定します。

【書式】 ウィンドウ座標 (X 座標), (Y 座標), (X サイズ), (Y サイズ)



背景

背景として表示する画像イメージの座標、サイズ、ファイル指定をします。

最大 40 個まで登録可能で、記述されている順に描画していきます。(画像が重なった場合、後で記述されている方が上に描画されます。)

【書式】 背景 (X 座標), (Y 座標), (X サイズ), (Y サイズ), (ファイルパス)

座標は、ウィンドウの描画領域の左上を始点にした座標です。

サイズで画像ファイルの元のサイズと異なる大きさを指定しても、自動的に変形して表示します。

各値は Pixel 単位で指定します。

ファイルパスは画像ファイルの絶対パスか、実行されている Launcher.exe のカレントディレクトリからの相対パスになります。

**ボタン**

ボタンとして表示する画像イメージの座標、サイズ、通常時と押されたときの画像ファイル、押されたときのコマンド等を指定します。

最大 40 個まで登録可能で、記述されている順に描画していきます。(画像が重なった場合、後で記述されている方が上に描画されます。)

【書式】 ボタン (X 座標), (Y 座標), (X サイズ), (Y サイズ), (画像ファイルパス:押下時), (画像ファイルパス:通常時), (コマンド), (引数), (作業フォルダ),

座標は、ウィンドウの描画領域の左上を始点にした座標です。

サイズで画像ファイルの元のサイズと異なる大きさを指定しても、自動的に変形して表示します。

各値は Pixel 単位で指定します。

ファイルパスは画像ファイルの絶対パスか、実行されている Launcher.exe のカレントディレクトリからの相対パスになります。

ボタンが押されたときに実行するアクションはコマンド、引数、作業フォルダで指定します。

サイクル

設定された時間で順番に切り替えて表示されるサイクル画像を指定します。一度に表示される画像は1つだけです。

最大 40 個まで登録可能で、記述されている順番で表示されます。

【書式】 サイクル,(X座標),(Y座標),(Xサイズ),(Yサイズ),
(表示時間),(画像ファイルパス),

座標は、ウィンドウの描画領域の左上を始点にした座標です。

サイズで画像ファイルの元のサイズと異なる大きさを指定しても、自動的に変形して表示します。

各値は Pixel 単位で指定します。

表示時間は ms 単位で指定します。あまり短くすると動作が不安定になる可能性があるので 1000ms 以上の値を設定してください。

ファイルパスは画像ファイルの絶対パスか、実行されている Launcher.exe のカレントディレクトリからの相対パスになります。

各パラメータは画像ごとに独立に設定できます。

サウンド

KTL ラウンチャがアクティブのときに再生する音楽データ(wave)を設定します。

登録できるのは 1 つだけです。

【書式】 サウンド,(ファイルパス),(周期)

再生できる音楽ファイルは wave 形式のものだけです。

周期は ms 単位で指定します。

0 を指定すると連続再生(リピート再生)になります。



- OneButtonSample の様にウィンドウと同じ大きさのボタンを使用したデザインの場合、メニューを OFF にすると通常の方法では終了できなくなります。この状態でラウンチャを終了したい場合はタスクマネージャから終了してください。

11-2-3 設定ファイルの参照

KTL ラウンチャは起動時に以下の順番で指定された設定ファイルを検索します。

- コマンドライン引数による指定
- レジストリによる指定
- デフォルト設定ファイル

コマンドラインによる指定

コマンドライン引数で指定します。スクリプトで実行するときなどに使用できます。

例) `C:\Program Files\KTL\Launcher> Launcher D:\OneButtonSample.csv`

レジストリによる指定

[HKEY_CURRENT_USER\Software\KTL] キーの "LauncherIni" で設定します。

例) `[HKEY_CURRENT_USER\Software\KTL]`
`"LauncherIni"="D:\OneButtonSample.csv"`

値が設定されていないときは、デフォルト設定ファイルを参照します。

デフォルト設定ファイル

デフォルトの設定ファイルは

`C:\Program Files\KTL\Launcher\Launcher.csv`

です。



- レジストリおよびデフォルト設定ファイルの変更を次回端末起動時にも反映させる場合は、システムドライブプロテクトを OFF の状態で編集を行う必要があります。
- 端末起動時にラウンチャを自動起動する方法は【8. アプリケーションの自動起動】をご参照ください。

12 アプリケーションの追加

オリジナルアプリケーションや市販のパッケージソフトを追加することで、本製品をより多機能な端末として使用することが可能になります。また、標準対応以外の周辺機器との接続には、その機器に対応したデバイスドライバ(以下ドライバと略す)の追加が必要になります。

本製品へアプリケーションやドライバを追加する場合には、以下の点に注意して実行してください。

12-1 インストール前の準備

本製品には CD-ROM ドライブや FD ドライブ等が装備されていないため、別のインストール手段を準備する必要があります。

- ◆ USB CD/DVD ドライブを用意
- ◆ ネットワークドライブを利用
- ◆ 拡張 CF カードや USB メモリスティックの利用

アプリケーションによっては実行できない方法もありますので、状況に応じて適切な方法を選択してください。

12-2 インストール時の注意事項

重要

- 拡張 CF ドライブを用意し、C ドライブ以外のドライブへのインストールを行うことを強く推奨します。
- 単体で動作するアプリケーションなどは runproc.vbs を利用するなどして、なるべくシステムドライブプロテクトを OFF にしないで運用するようにしてください。
- アプリケーションによっては、本製品に標準搭載されているライブラリファイル以外のものが必要となる場合があります。そのときは必要なライブラリファイルを別途ご用意ください。
- インストール時に実際にインストールされるファイル容量よりも大きい空き容量が必要な場合があります。C ドライブの空き容量を超える容量を要求された場合、インストールは実行できません。
- アプリケーションによっては、システムドライブプロテクトを OFF の状態でインストールする必要があります。
- 動作確認済みのアプリケーション・周辺機器については弊社ホームページをご参照ください。

注意

- 必ずシステムドライブプロテクトが ON の状態でインストールの事前確認を行ってください。
- インストールが終了した後は十分動作確認を行ってください。
- お客様がシステムドライブプロテクトを解除した状態でインストール作業を行った場合は、システムドライブの内容が変更される可能性があります。システムドライブの内容の変更された状況における問題については弊社保証の対象外となりますのでご了承ください。

13 QFE インストーラ

本製品には Microsoft 社より提供されている QFE インストーラが組み込まれています。

これは Windows XP Embedded OS に Microsoft 社より発行された QFE (パッチ) を適用するためのプログラムです。緊急度が高く早急に対応する必要がある場合にご使用ください。

以下に QFE インストーラを使用する場合の手順を説明します。

1. 弊社のホームページより QFE インストーラ関連ファイルをダウンロードする。
2. システムドライブプロテクトを OFF の状態にする。
3. ダウンロードしたファイル (圧縮ファイル) をメモリスティックなどに保存し、端末に装着する。
4. 圧縮ファイルを解凍し、Readme を参照して QFE インストーラを実行する。
5. インストールウィザードの指示に従いインストールを実行する。
6. 全てのインストールが終了したら、システムドライブプロテクトを ON の状態にする。



- 本製品本体にあらかじめ組み込まれていない機能についての QFE はインストールすることはできません。また、システムドライブの空容量などの条件からインストールが実行できない場合もあります。
- 弊社が提供する以外の QFE を本システムに適用しないでください。システムに重大な影響を与える可能性があります。
- 詳細に関しては弊社サポートセンタへお問い合わせください。

2007 年 10 月 1 日 初版 発行
2008 年 5 月 1 日 第 2 版 発行
2008 年 9 月 1 日 第 3 版 発行
2008 年 10 月 1 日 第 4 版 発行



クオリカ株式会社

<http://www.qualica.co.jp/>

WebLight 室

〒135-0016 東京都江東区東陽 5-29-15

サポートセンタ

TEL: 03-5625-8174 FAX: 03-5625-8230

Mail weblight@qualica.co.jp